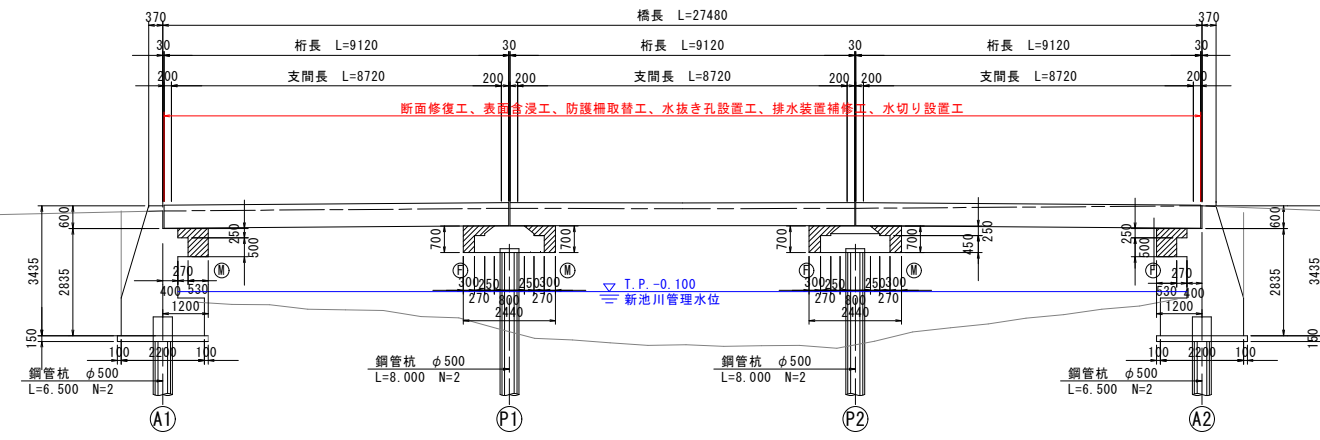


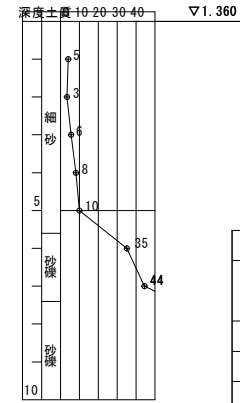
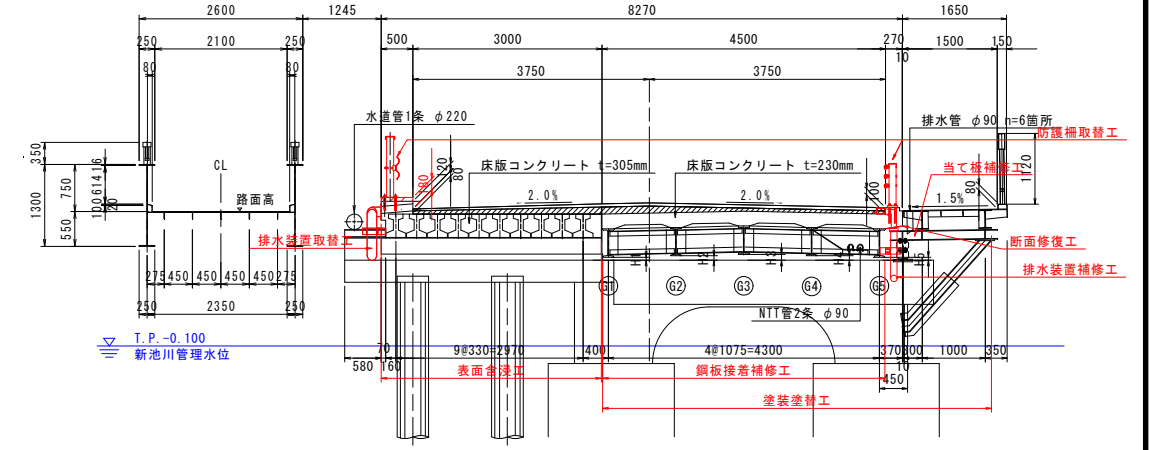
補修一般図 S=1:100

側面図

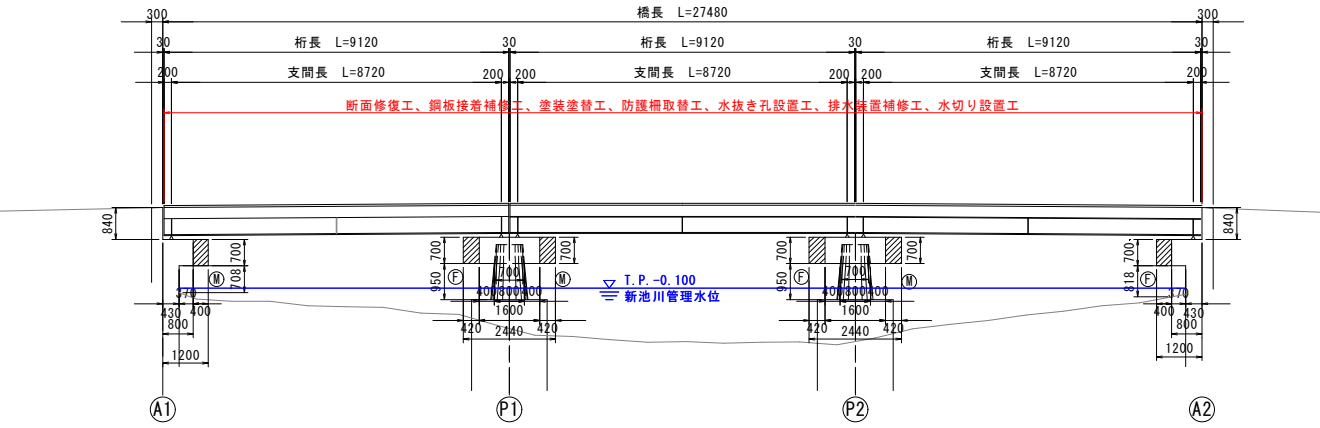
PC床版橋



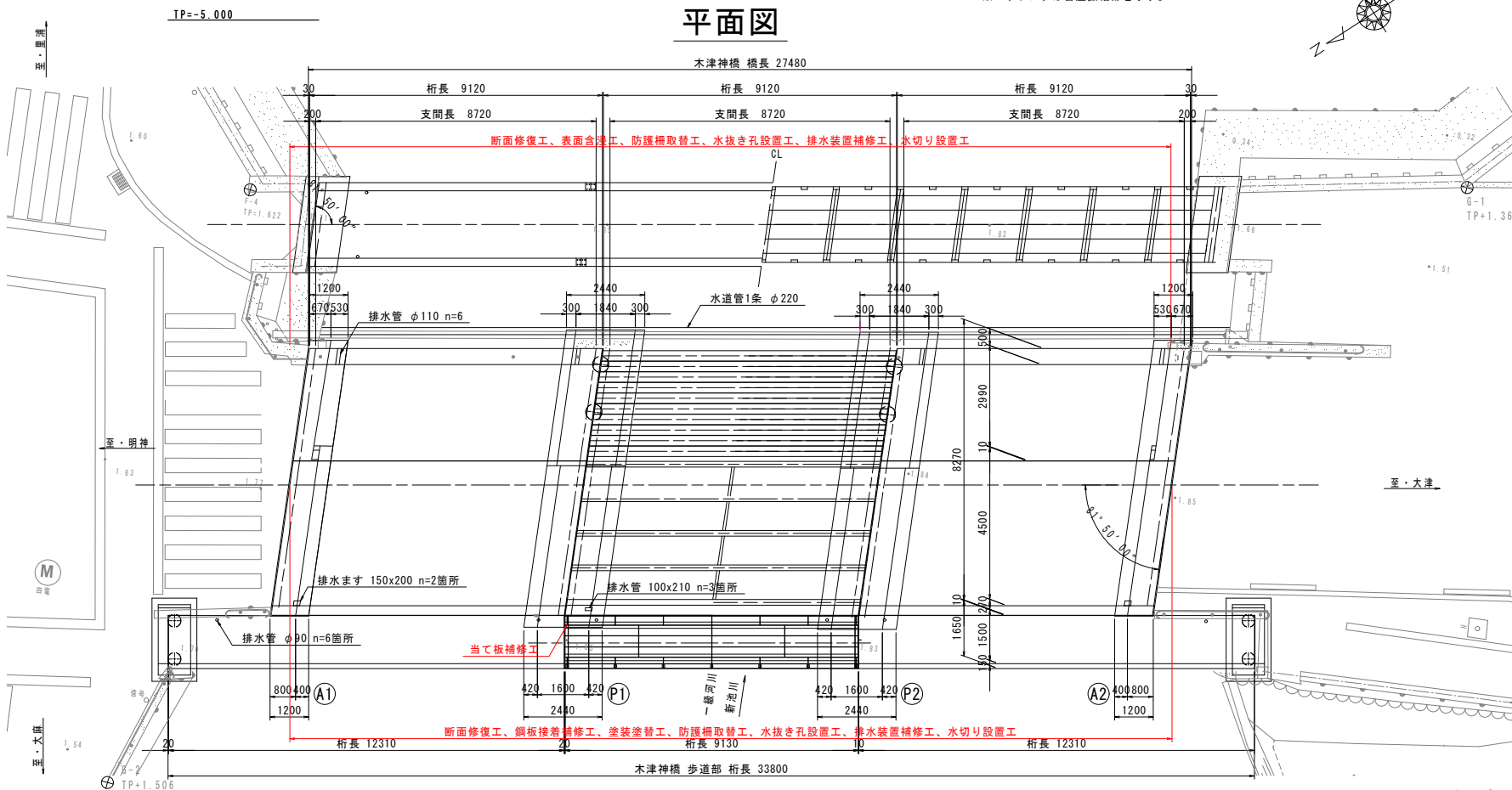
断面図 S=1:60



鋼I形桁橋



平面図



【橋梁諸元】

橋梁名称	木津神橋
所在地	(自)徳島県鳴門市撫養町木津 (至)徳島県鳴門市撫養町木津
路線名	明神大津線
管轄	徳島県鳴門市
橋長	27.48m
径間数	3径間
幅員	全幅：8.27m、有効幅員：7.5m 地覆0.5+路肩1.0m+車道3.0m+車道3.0m+路肩0.5m+地覆0.27m
上部工形式	鋼橋 鋼単純1桁橋 PC橋 プレテンション方式単純1桁橋
下部工形式	鋼橋 重力式橋台2基、ラーメン式橋脚2基 PC橋 重力式橋台2基、パイルベント式橋脚2基
基礎工形式	鋼橋 ケーソン基礎 PC橋 杭基礎
設計荷重	鋼橋 二等橋(TL-14) PC橋 -
適用示方書	鋼橋 昭和47年道路橋示方書 PC橋 大正15年道路構造に関する細則案
設計年度	鋼橋 - PC橋 1974年(昭和49年1月)
架設年度	鋼橋 1934年(昭和9年3月) PC橋 1975年(昭和50年3月)
交差物件	一級河川吉野川水系 新池川
添架物	水道管、NTT
緊急輸送路の指定	無し

【補修項目】

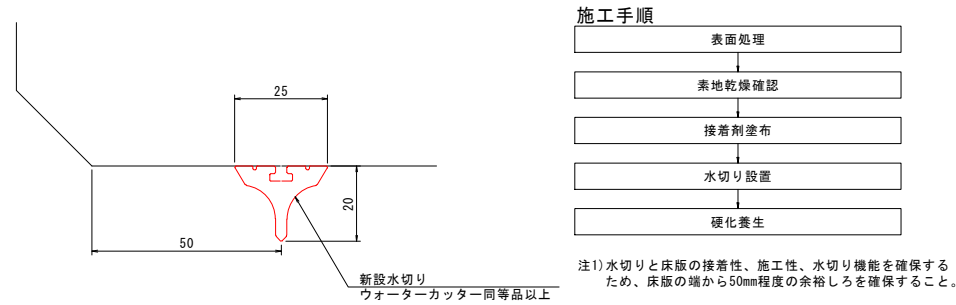
工法	判定区分	部材	規格	単位	数量	備考
断面修復工	III	上部工	ポリマーセメントモルタル	m ³	0.24	
表面含浸工	II	上部工	プロテクトシルCIT同等品以上	m ²	108.7	
当て板補修工	III	上部工		箇所	1	
塗装塗替工	II	上部工	Rc-II(塗膜剥離剤)	m ²	521.3	
防護柵取替工	II	防護柵	ガードレール(B種)、ガードパイプ(B種)	m	54.8	
排水装置補修工	II	排水装置		箇所	14	
水切り設置工	-	床版		m	54.7	
鋼板接着補修工	-	床版		m ²	13.7	

図面番号	第 1 号	図面総数	全 18 葉
工事名称	木津神橋橋梁補修工事		
図名	補修一般図		
製作年月	令和4年6月	所属年度	令和4年度
係員	課長	副課長	係長
	係員	設計・製図	照査
鳴門市 都市建設部 土木課			

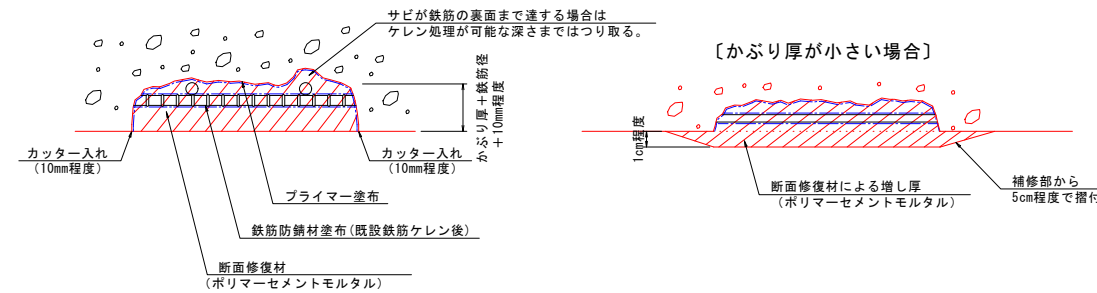
※本工事は吊足場を2回に分割設置して施工することを想定している。

補修詳細図(その1)

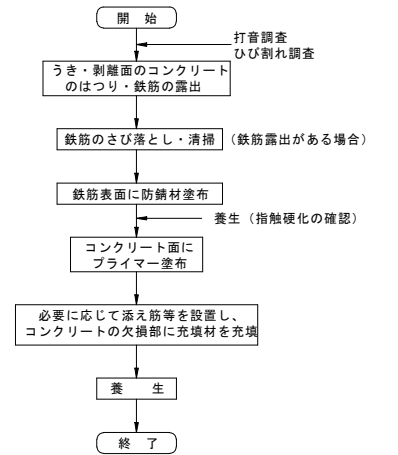
水切り詳細図 S=1:1



断面修復工詳細図

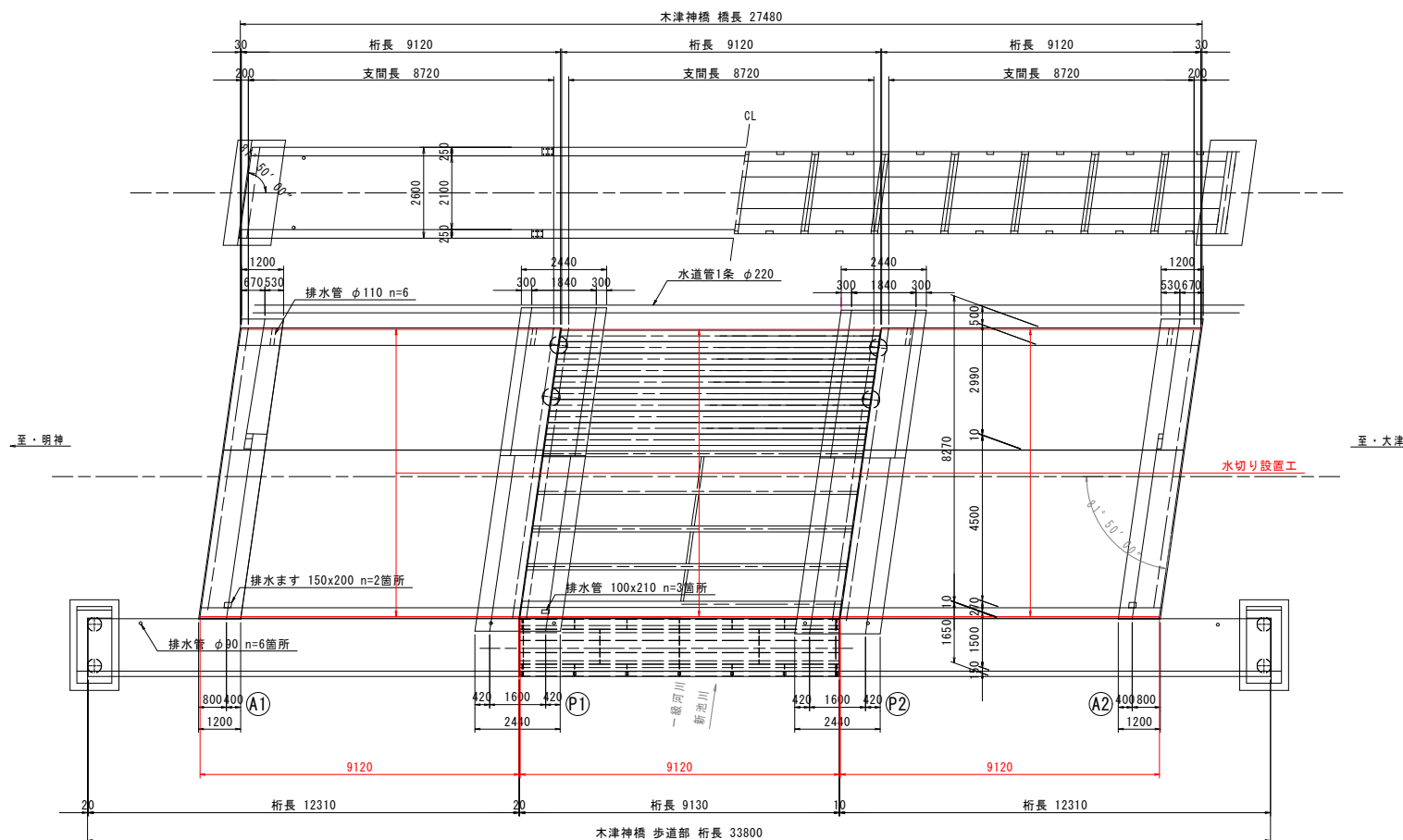


〔断面修復工法の施工要領〕



- ※ 使用する材料の仕様に基づいて施工すること。
- ※ 補修部縁端は、フェザーエッジが生じないようにカッターで切れ込みを入れること。
- ※ 鉄筋のかぶり厚が薄い場合は、ポリマーセメントモルタルで10mm以上は確保するように盛って撒り付ける形で断面修復を行うこと。施工時の番線等の残鉄は可能な限り除去して断面修復すること。
- ※ はつり深さは適宜調整するものとし、脆弱部は完全に除去して充填を行うこと。
- ※ 鉄筋がある場合は、既設鉄筋の背面、既設部材の粗骨材寸法程度まで除去すること。(10~20mm程度)
- ※ 豆板部で粗骨材が露出している部分においては脆弱部ははつり取り、健全部を露出してポリマーセメントモルタル等を塗布や充填して復旧すること。
- ※ はつりを行い、鉄筋が確認された場合は錆を除去した後、鉄筋防錆材を塗布すること。

水切り設置位置図 S=1:100



図面番号	第 2 号	図面総数	全 18 葉
工事名称	木津神橋橋梁補修工事		
図名	補修詳細図(その1)		
製作年月	令和4年6月	所属年度	令和4年度
係員	課長	副課長	係長
	係員	設計・製図	照査

鳴門市 都市建設部 土木課

※本工事は吊足場を2回に分割設置して施工することを想定している。

補修詳細図(その2) S=1:40

鈑桁部 桁下面

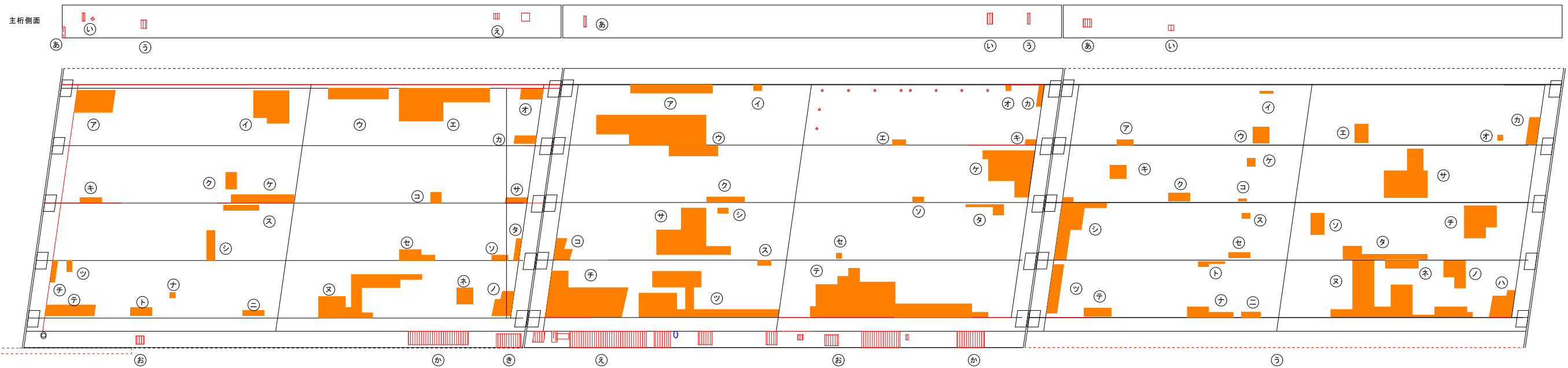
第1径間

第2径間

第3径間

起点側

終点側



鋼板接着再注入工

No.	うき面積 [m ²]
ア	0.280
イ	0.365
ウ	0.220
エ	0.693
オ	0.080
カ	0.060
キ	0.040
ク	0.060
ケ	0.173
コ	0.040
サ	0.040
シ	0.083
ス	0.065
セ	0.105
ソ	0.030
タ	0.040
チ	0.040
ツ	0.020
テ	0.180
ト	0.060
ナ	0.010
ニ	0.040
ネ	0.615
ノ	0.090
ハ	0.135
小計	3.563

面積はCADより算出

No.	うき面積 [m ²]
ア	0.030
イ	0.013
ウ	0.090
エ	0.088
オ	0.010
カ	0.100
キ	0.075
ク	0.060
ケ	0.023
コ	0.008
サ	0.520
シ	0.392
ス	0.015
セ	0.040
ソ	0.100
タ	0.208
チ	0.320
ツ	0.180
テ	0.075
ト	0.035
ナ	0.125
ニ	0.035
ネ	0.930
ノ	0.090
ハ	0.179
小計	3.899

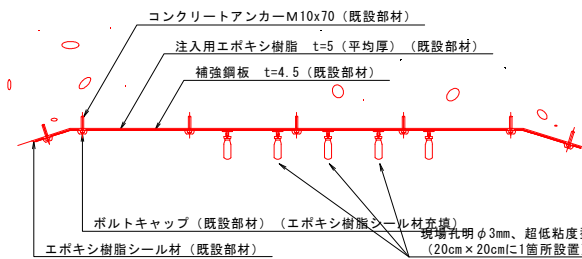
面積はCADより算出

No.	うき面積 [m ²]
ア	0.225
イ	0.015
ウ	1.160
エ	0.025
オ	0.010
カ	0.040
キ	0.020
ク	0.070
ケ	0.544
コ	0.100
サ	0.653
シ	0.020
ス	0.025
セ	0.010
ソ	0.020
タ	0.065
チ	0.878
ツ	0.924
テ	1.393
ト	0.135
小計	6.196

面積はCADより算出

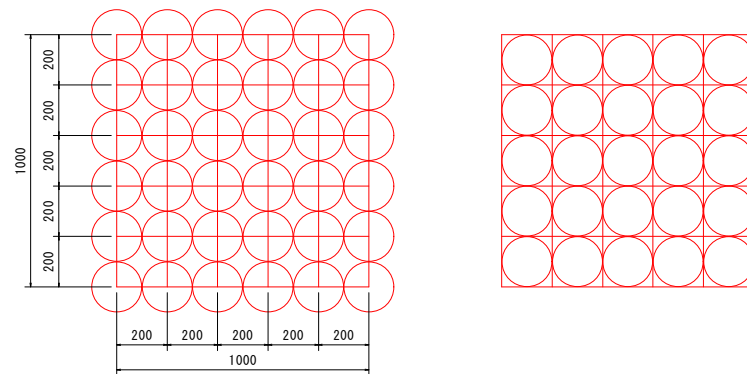
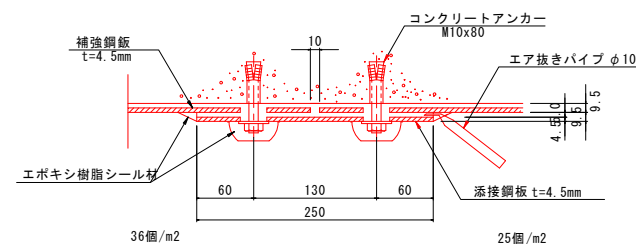
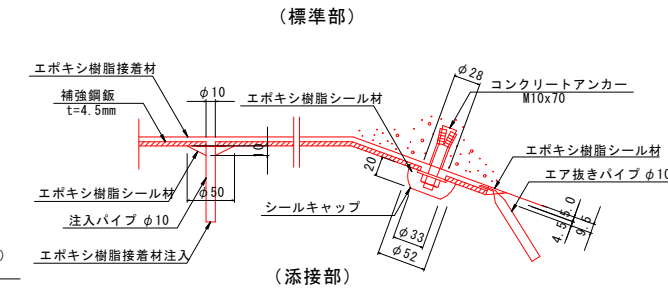
径間	うき面積 [m ²]
第1径間	3.563
第2径間	6.196
第3径間	3.899
合計	13.658

再注入詳細図 S=1:15



数量算出要領

- 再注入面積
A1=1m² (参考値)
- 注入器具 (0.2m×0.2mに1本)
N1=1000×1000/(100²×π) 本/m²
=32本/m²
- 注入材 (想定注入厚1mm、比重1.2、収率15%)
W1=再注入面積×1mm×1.2×1.15
=1×0.001×1200×1.15
=1.38kg
- 現場孔明 (φ3mm、0.2m×0.2mに1本)
N2=再注入面積×32本/m²
=1×32本
=32本
- 注入器具周りのシール材 (1本当り0.0082kg=0.04×0.04×0.003×1700×収率15%)
W2=注入器具本数×0.0094kg/本
=32×0.0094
=0.30kg
- 端部鋼板再シールのためのシール材 (1m×2箇所、収率15%)
W3=0.0095×0.019/2×1×2箇所×1700×1.15
=0.35kg
- 鋼板部再塗装
(部分的に塗装を行うか、全体的に再塗装を行うか協議する)



断面修復工法(左官工法) 第1径間

部材	No.	種別	幅 W [mm]	延長 L [mm]	深さ t [mm]	面積 A [m ²]	体積 V [m ³]
主桁0101	あ	剥離	500	20	50	0.0100	0.0005
主桁0101	い	鉄筋露出	150	250	50	0.0375	0.0019
主桁0101	う	鉄筋露出	150	100	50	0.0150	0.0008
主桁0101	え	鉄筋露出	100	100	50	0.0100	0.0005
床版0601	お	鉄筋露出	150	150	50	0.0225	0.0011
床版0601	か	鉄筋露出	250	1100	50	0.2750	0.0138
床版0601	き	鉄筋露出	250	450	50	0.1125	0.0056

断面修復工法(左官工法) 第2径間

部材	No.	種別	幅 W [mm]	延長 L [mm]	深さ t [mm]	面積 A [m ²]	体積 V [m ³]
主桁0101	あ	鉄筋露出	200	50	50	0.0100	0.0005
主桁0101	い	鉄筋露出	200	100	50	0.0200	0.0010
主桁0101	う	鉄筋露出	200	50	50	0.0100	0.0005
床版0601	え	鉄筋露出	300	300	50	0.0900	0.0045
床版0601	お	鉄筋露出	300	2000	50	0.6000	0.0300
床版0601	か	鉄筋露出	300	500	50	0.1500	0.0075

断面修復工法(左官工法) 第3径間

部材	No.	種別	幅 W [mm]	延長 L [mm]	深さ t [mm]	面積 A [m ²]	体積 V [m ³]
主桁0101	あ	鉄筋露出	150	150	50	0.0225	0.0011
主桁0101	い	鉄筋露出	100	100	50	0.0100	0.0005
床版0601	う	鉄筋露出	300	9120	50	2.7360	0.1368

凡例	
ひびわれ	
うき	
剥離	
鉄筋露出	
遊離石灰	
豆板・空洞	
漏水・滲水	

※本工事は吊足場を2回に分割設置して施工することを想定している。

鳴門市 都市建設部 土木課

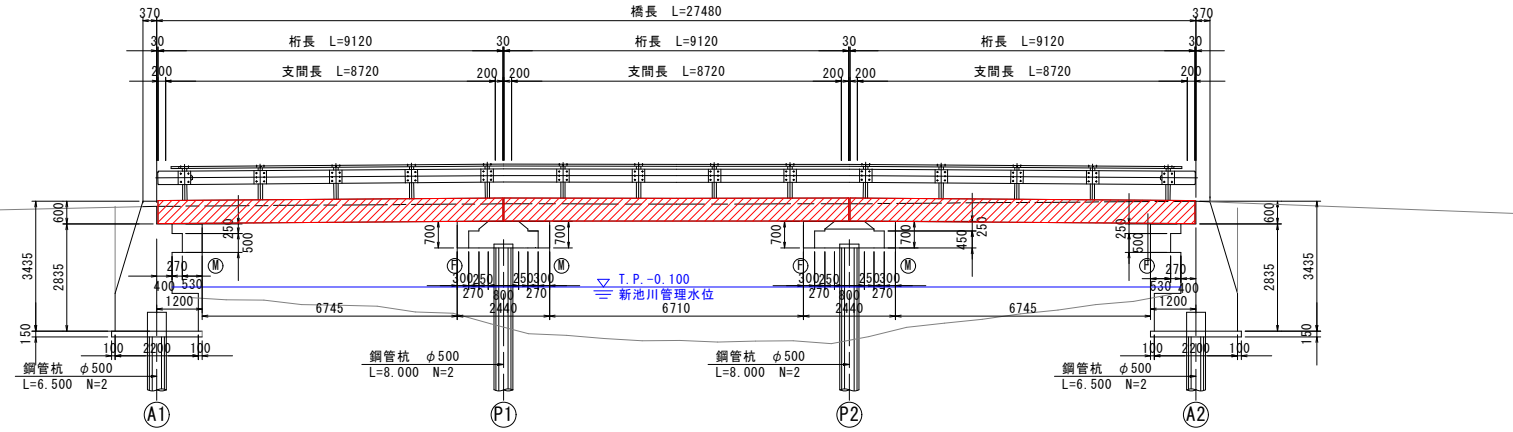
図面番号	第 3 号	図面総数	全 18 葉
工事名称	木津神橋橋梁補修工事		
図名	補修詳細図(その2)		
製作年月	令和4年6月	所属年度	令和4年度
係員	課長	副課長	係長
	係員	設計・製図	照査

補修詳細図(その3) S=1:40

PC橋 表面含浸工

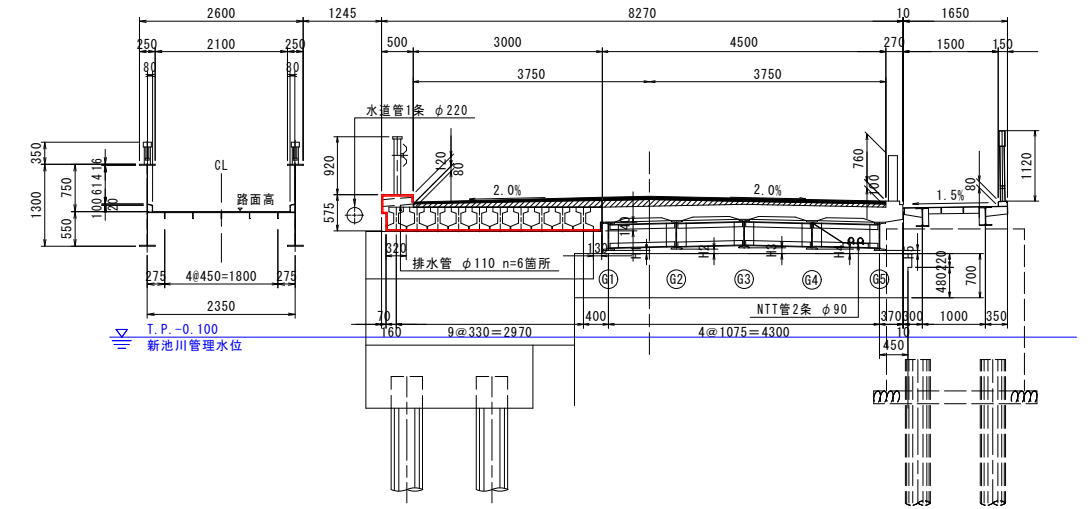
側面図

PC床版橋



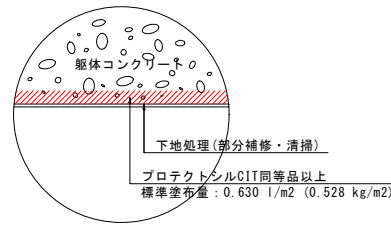
断面図 S=1:60

橋台部



表面含浸工詳細図

表面含浸補修工		PC橋 上部工	
箇所	算式	単位	数量
地覆天端、側面	$0.120 + 0.500 + 0.575 + 0.070 + 0.140$	m	1.405
床版下面	$0.320 \times 10 + 0.130$	m	3.330
延長			
地覆天端、側面			
第1径間	9.120	m	9.120
第2径間	9.120	m	9.120
第3径間	9.120	m	9.120
床版下面			
第1径間	6.745	m	6.745
第2径間	6.710	m	6.710
第3径間	6.745	m	6.745
延長×延長			
地覆天端、側面			
第1径間	1.405×9.120	m	12.814
第2径間	1.405×9.120	m	12.814
第3径間	1.405×9.120	m	12.814
床版下面			
第1径間	3.330×6.745	m	22.461
第2径間	3.330×6.710	m	22.344
第3径間	3.330×6.745	m	22.461



施工手順

- はつり(鉄筋まではチッパー)
- はつり(鉄筋背面電動ピック)
- サンドブラストによる除錆(Sa2)
- 鉄筋防錆剤塗布
- プライマー塗布
- 断面修復材充填(ポリマーセメントモルタル)
- プロテクトシルCIT同等品以上塗布(躯体コンクリート)
使用量: 0.600 l/m2

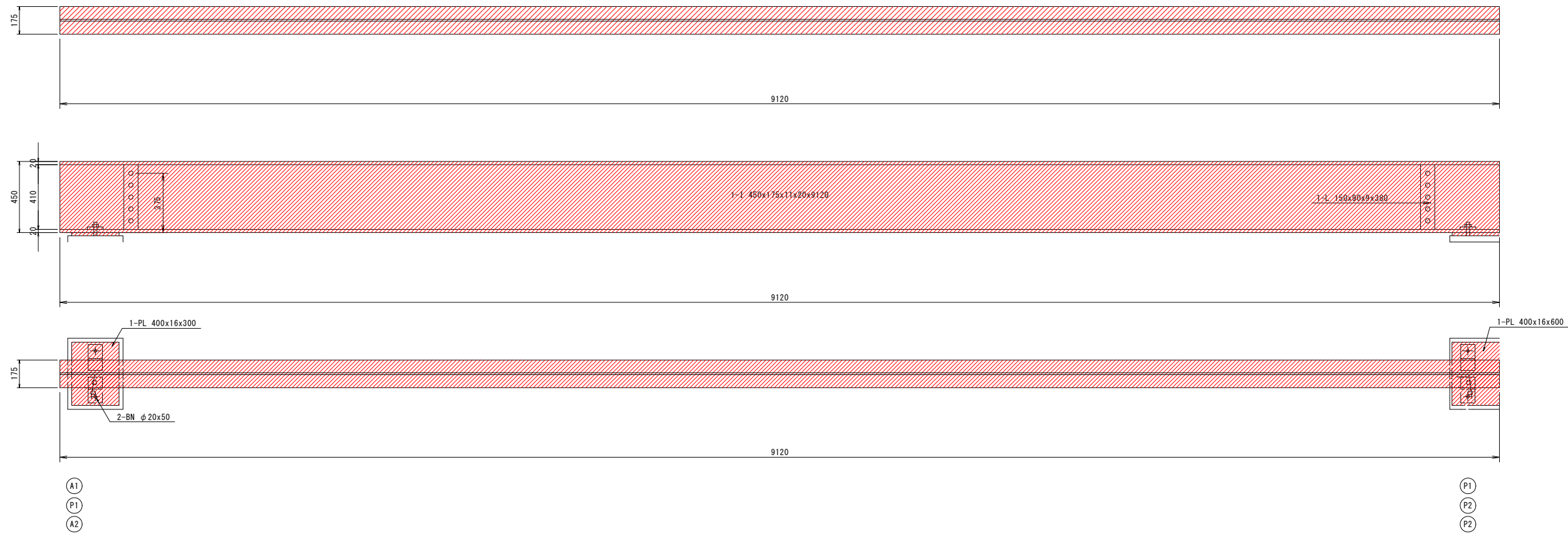
図面番号	第 4 号	図面総数	全 18 葉
工事名称	木津神橋橋梁補修工事		
図名	補修詳細図(その3)		
製作年月	令和4年6月	所属年度	令和4年度
係員	課長	副課長	係長
	係員	設計・製図	照査

※本工事は吊足場を2回に分割設置して施工することを想定している。

鳴門市 都市建設部 土木課

塗装塗替詳細図(その1) S=1:15

主桁詳細図

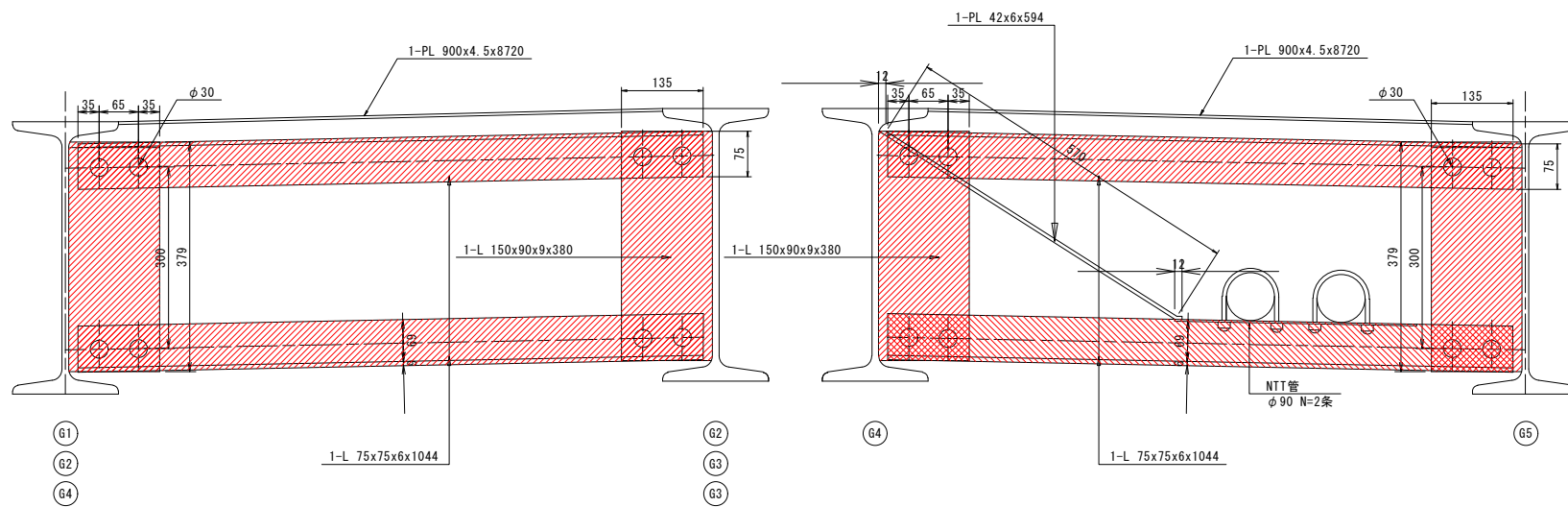


対傾構詳細図 S=1:6

標準部

水道管添架部

塗装塗替要領



- 素地調整工
塗膜剥離剤(リペアソルブS同等品)+2種
- 下塗り工(有機ジンクリッチペイント)
(0.60kg/m²/回)
- 下塗り工(弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗り 2回)
(0.20kg/m²/回)
- 中塗り工(弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料中塗り)
(0.14kg/m²/回)
- 上塗り工(弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料上塗り)
(0.12kg/m²/回)

仕様一覧

塗装工程	塗料名	使用量 (g/m ²)	塗装間隔
素地調整	塗膜剥離剤(リペアソルブS同等品以上)+2種		4時間以内
下塗り	有機ジンクリッチペイント	600	1日~10日
下塗り	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗り	200	1日~10日
下塗り	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗り	200	1日~10日
中塗り	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料中塗り	140	1日~10日
上塗り	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料上塗り	120	1日~10日

使用量()内は、鋼材露出部のみ有機ジンクリッチペイントを塗付する。

図面番号	第 5 号	図面総数	全 18 葉
工事名称	木津神橋橋梁補修工事		
図名	塗装塗替詳細図(その1)		
製作年月	令和4年6月	所属年度	令和4年度
係員	課長	副課長	係長
	係員	設計・製図	照査

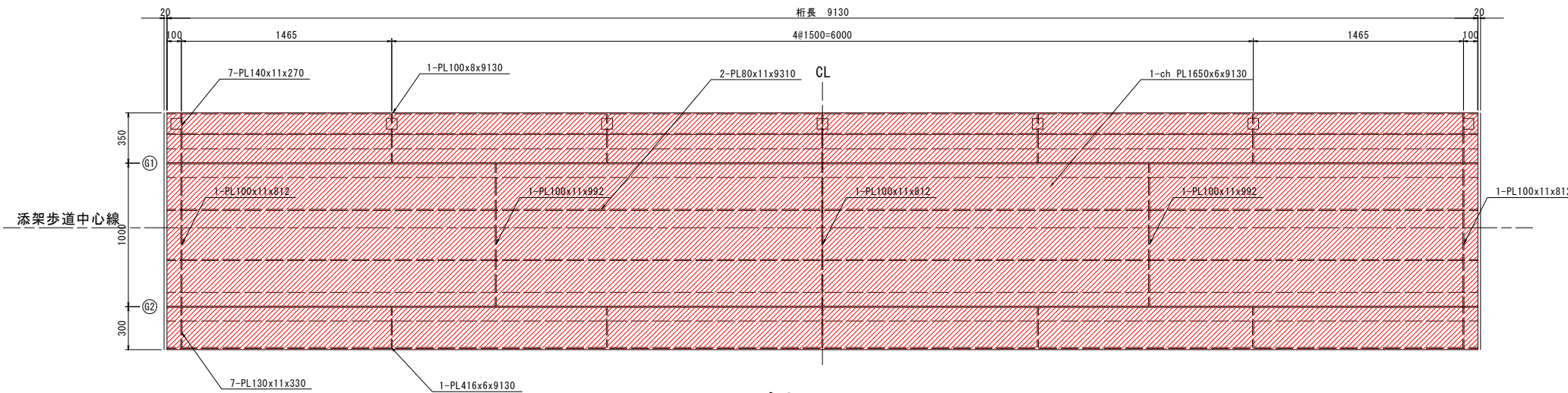
※本工事は吊足場を2回に分割設置して施工することを想定している。

鳴門市 都市建設部 土木課

塗装塗替詳細図(その2) S=1:30

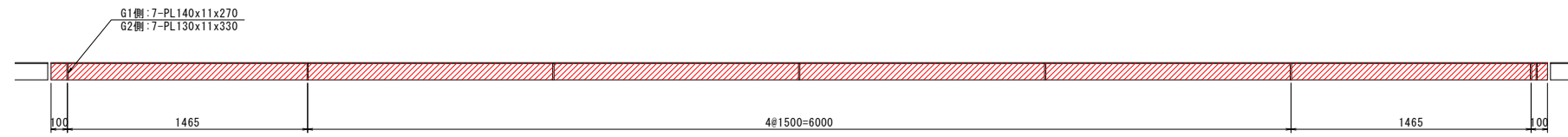
添架歩道(主桁詳細図(中央径間))

平面図 S=1:20

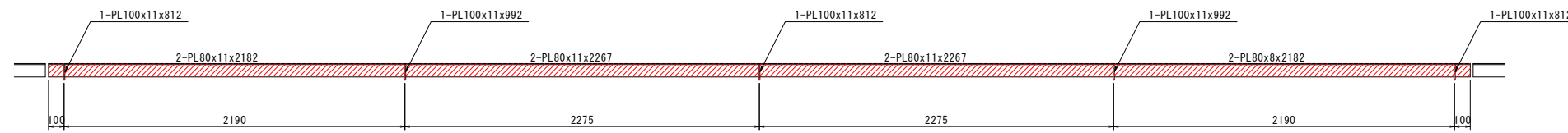


側面図 S=1:20

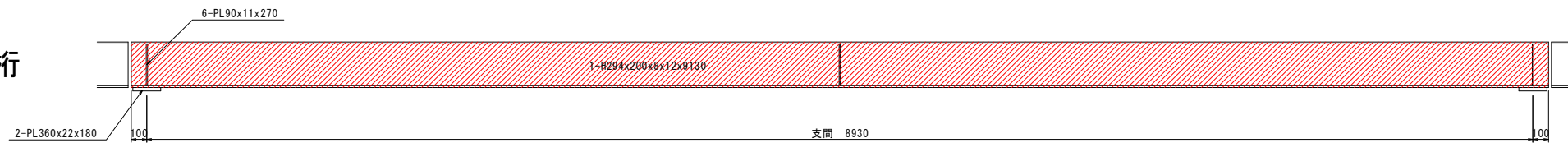
ブラケット部



横リブ部

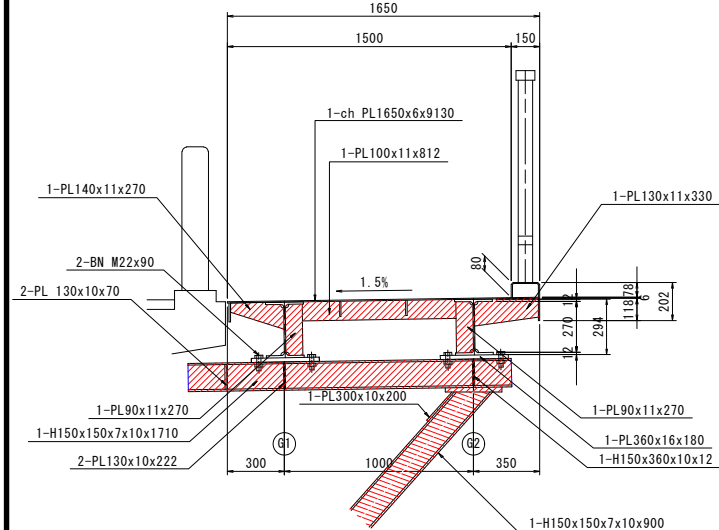


主桁

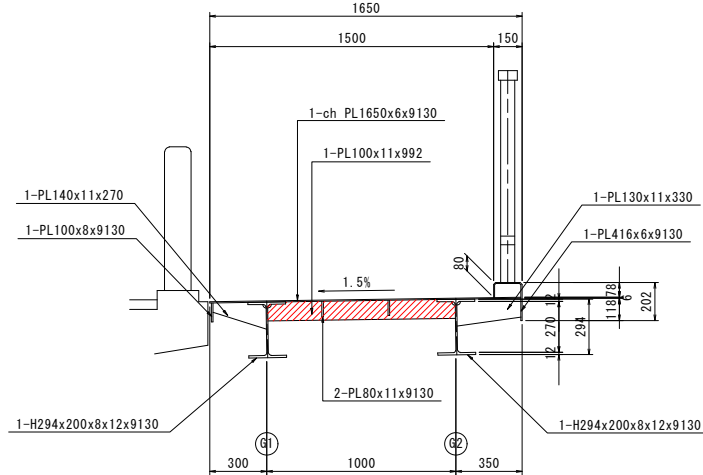


断面図 S=1:20

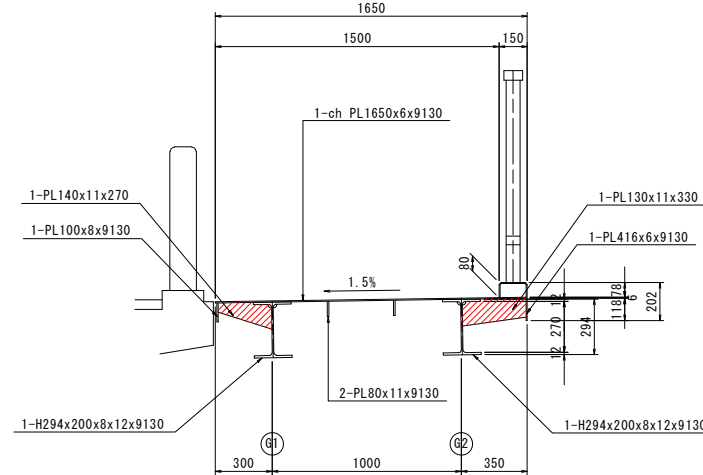
支点部



横リブ部



ブラケット部



※本工事は吊足場を2回に分割設置して施工することを想定している。

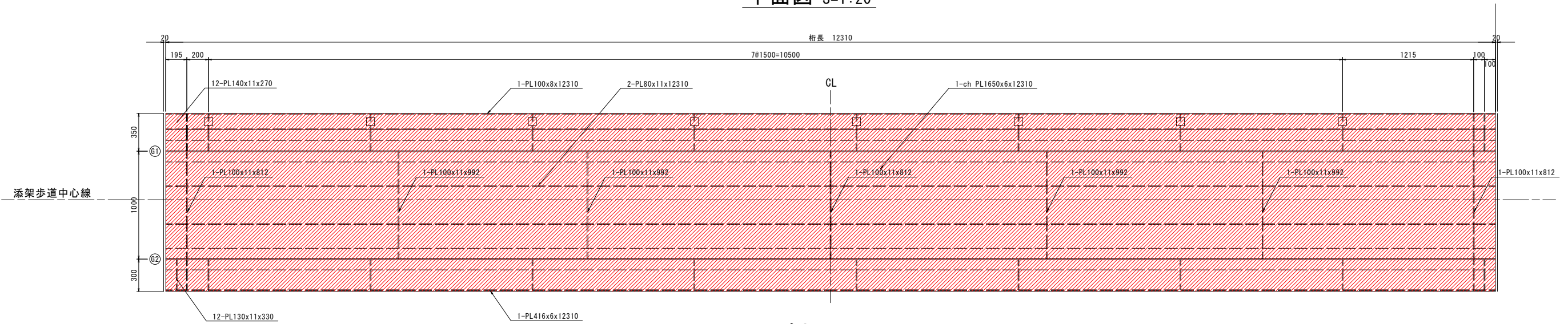
図面番号	第 6 号	図面総数	全 18 葉
工事名称	木津神橋橋梁補修工事		
図名	塗装塗替詳細図(その2)		
製作年月	令和4年6月	所属年度	令和4年度
係員	課長	副課長	係長
	係員	設計・製図	照査

鳴門市 都市建設部 土木課

塗装塗替詳細図(その3) S=1:30

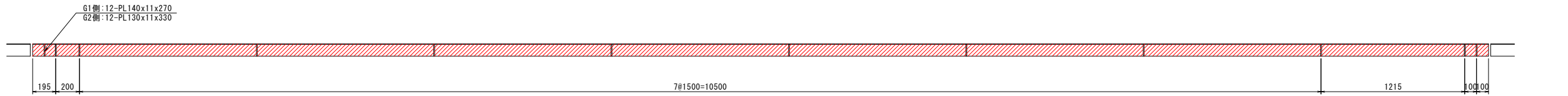
添架歩道(主桁詳細図(側径間))

平面図 S=1:20

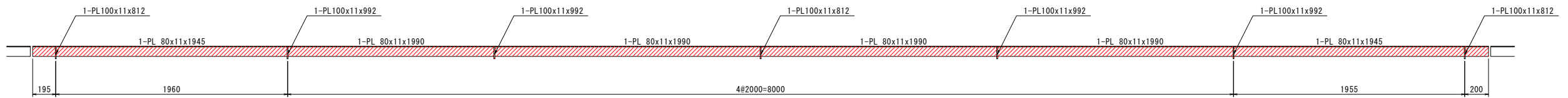


側面図 S=1:20

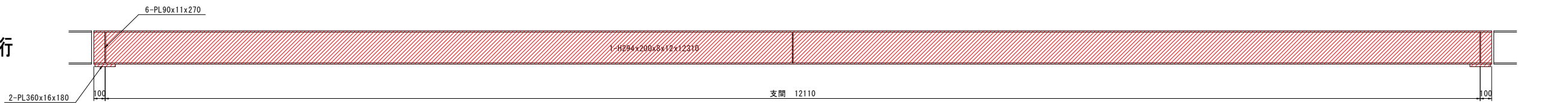
ブラケット部



横リブ部

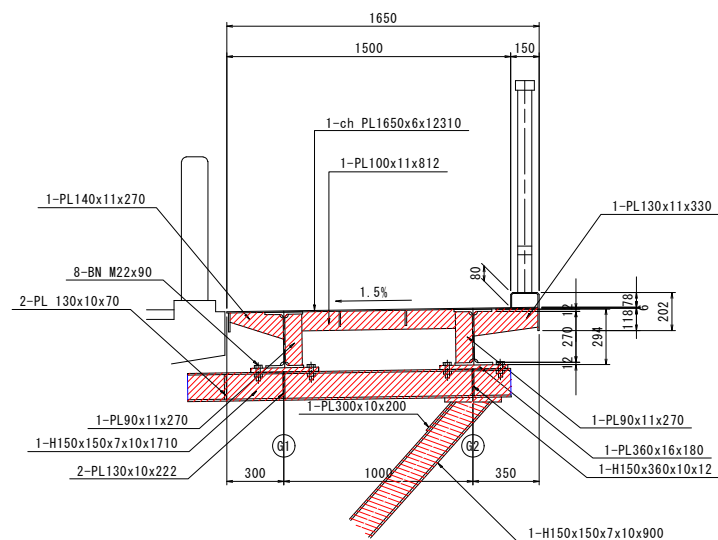


主桁

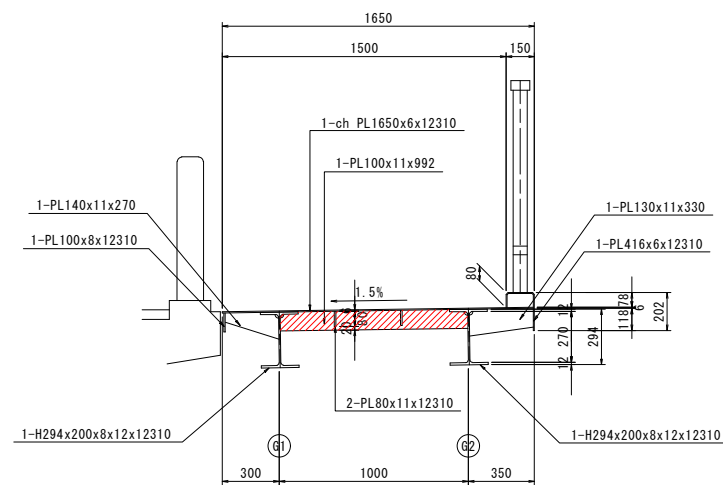


断面図 S=1:20

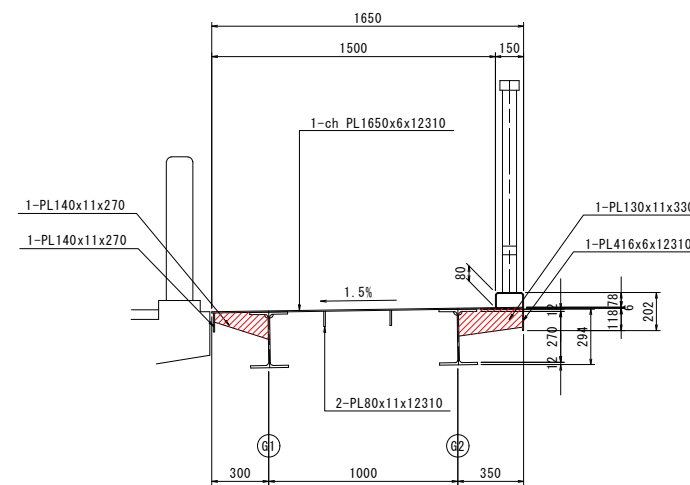
支点部



横リブ部



ブラケット部



※本工事は吊足場を2回に分割設置して施工することを想定している。

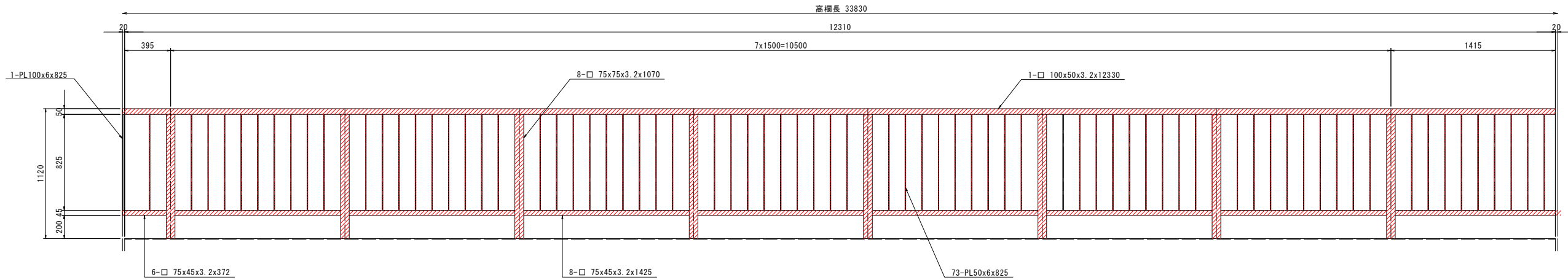
図面番号	第 7 号	図面総数	全 18 葉
工事名称	木津神橋橋梁補修工事		
図名	塗装塗替詳細図(その3)		
製作年月	令和4年6月	所属年度	令和4年度
係員	課長	副課長	係長
	係員	設計・製図	照査

鳴門市 都市建設部 土木課

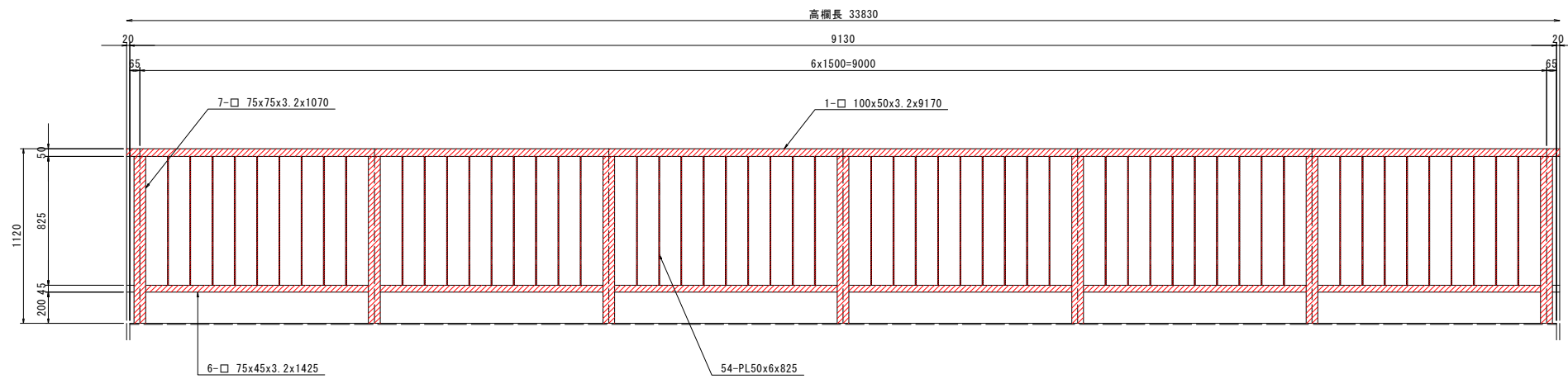
塗装塗替詳細図(その4) S=1:30

側面図 S=1:20

高欄詳細図(側径間)

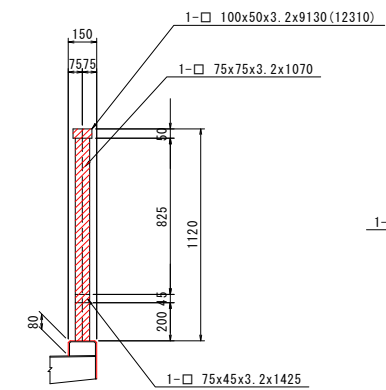


高欄詳細図(中央径間)

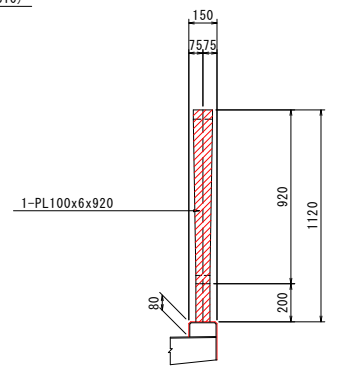


断面図 S=1:20

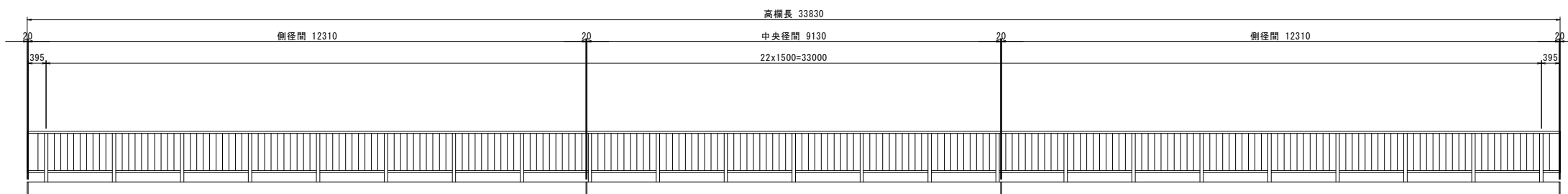
一般部



端部



マーク図 S=1:60



図面番号	第 8 号	図面総数	全 18 葉
工事名称	木津神橋橋梁補修工事		
図名	塗装塗替詳細図(その4)		
製作年月	令和4年6月	所属年度	令和4年度
係員	課長	副課長	係長
	係員	設計・製図	照査

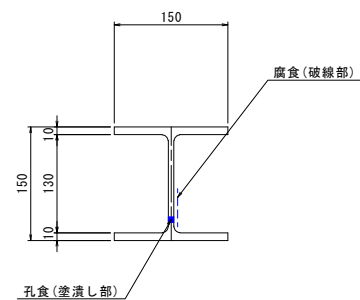
※本工事は吊足場を2回に分割設置して施工することを想定している。

鳴門市 都市建設部 土木課

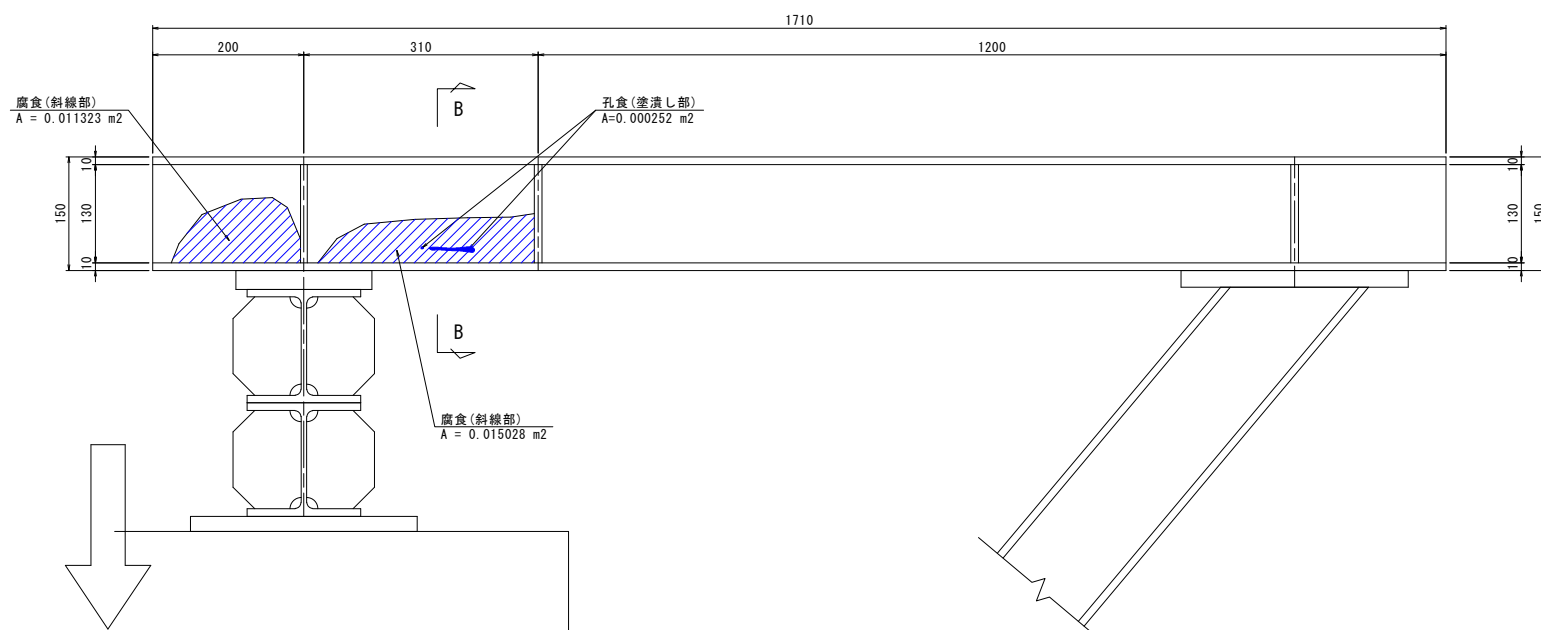
当て板補修詳細図 S=1:5

現況図

断面図 A-A

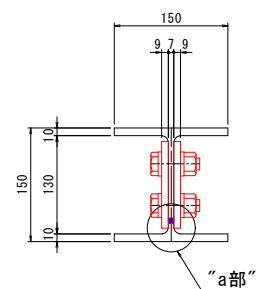


側面図

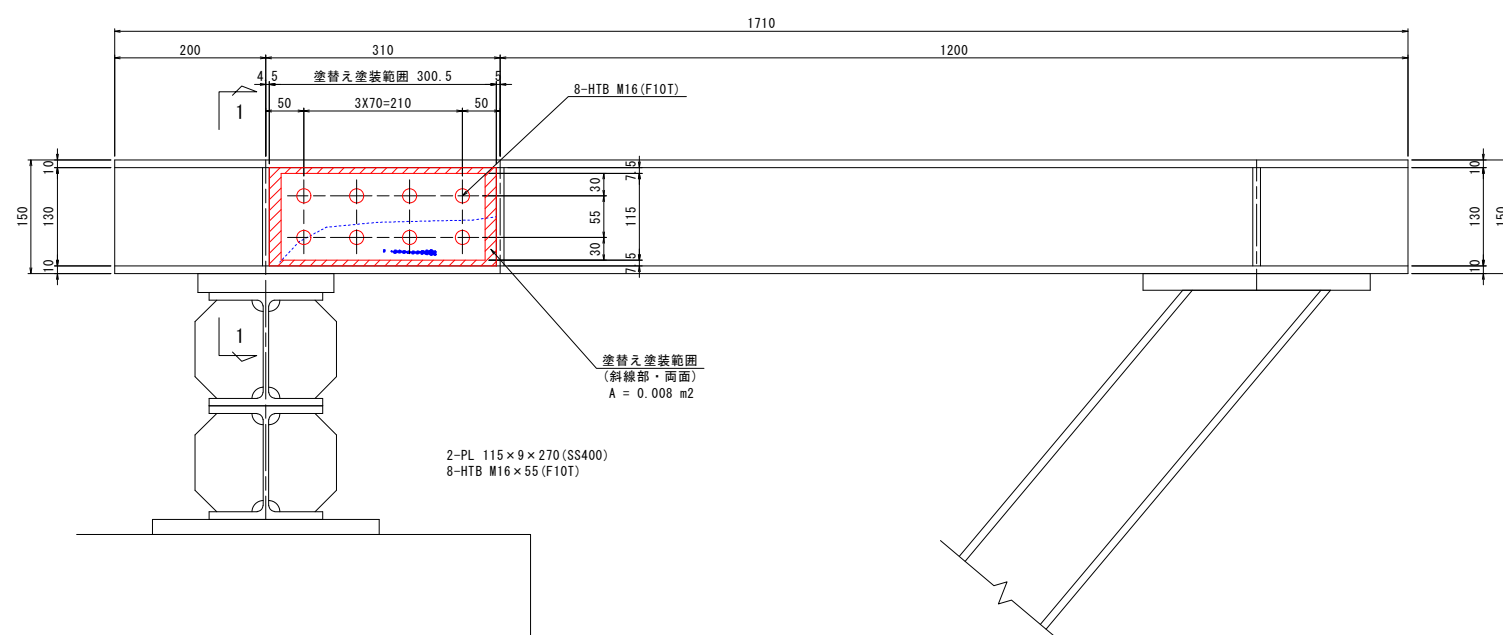


補修図

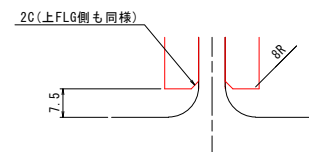
断面図 1-1



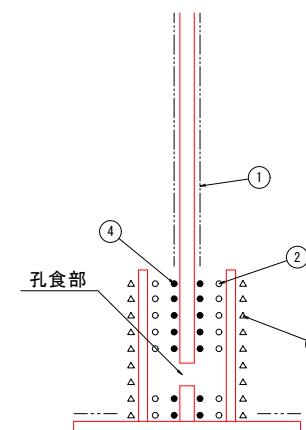
側面図



"a"部詳細 S=1:1



桁端塗装区分図



塗装仕様

①	----- Rc-II	現場	既設一般部
②	ooooo 1種ケレン後、無機ジンク	工場	添接板接触面
③	△△△△ F-11	現場	添接板外面、ボルト部
④	●●●● 2種ケレン後、有機ジンク	現場	既設部と添接板との接触面

注1) 塗装は全体の塗り替えとし、その塗装系はRc-IIとする。

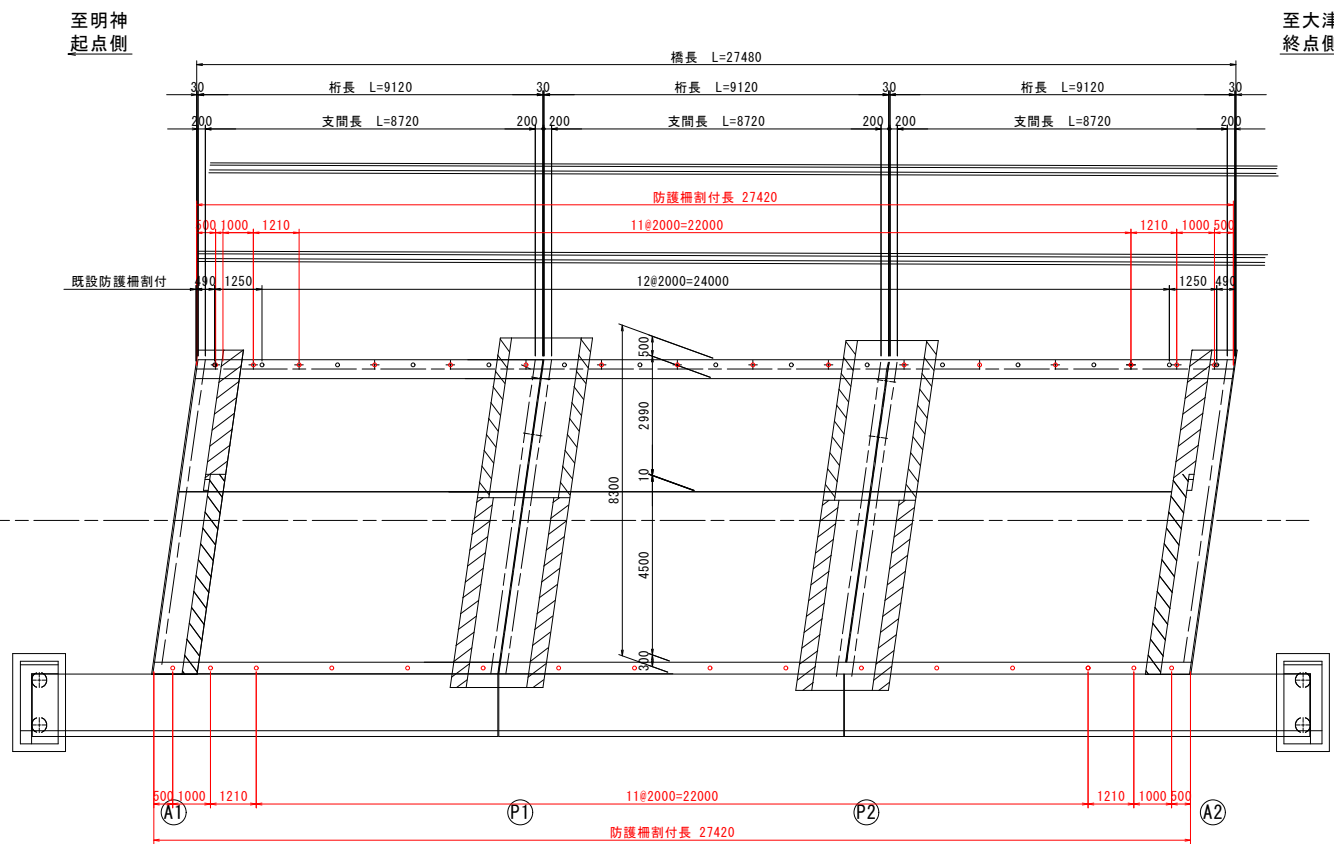
図面番号	第 9 号	図面総数	全 18 葉
工事名称	木津神橋橋梁補修工事		
図名	当て板補修詳細図		
製作年月	令和 4 年 6 月	所属年度	令和 4 年度
係員	課長	副課長	係長
	係員	設計・製図	照査

鳴門市 都市建設部 土木課

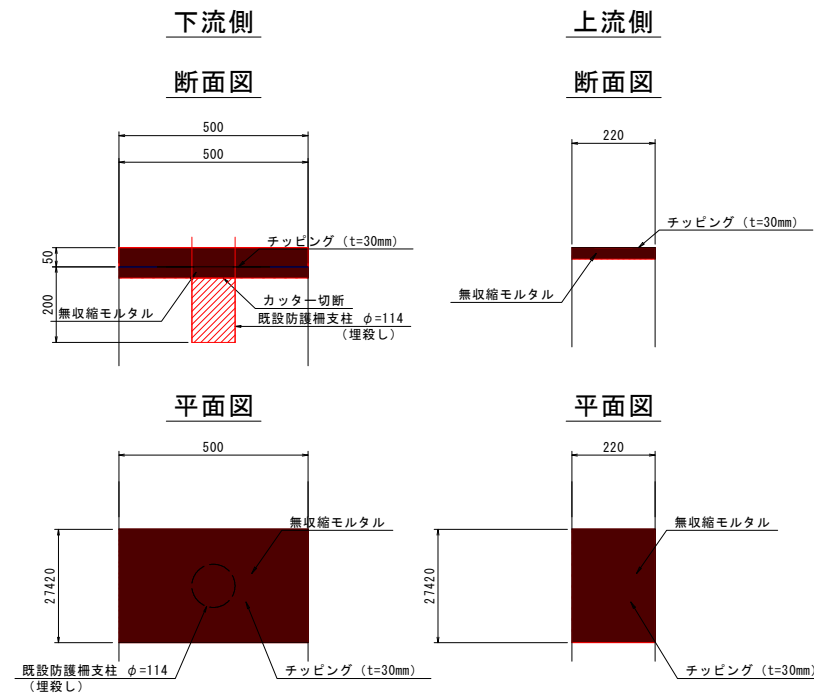
※本工事は吊足場を2回に分割設置して施工することを想定している。

防護柵取替構造図(その1) S=1:100

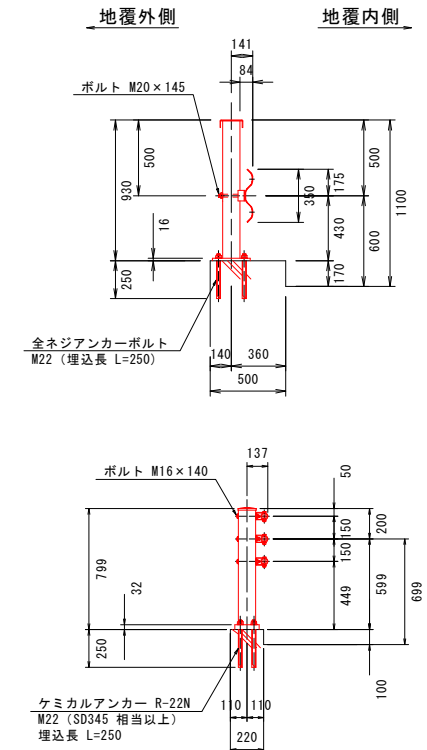
防護柵割付図



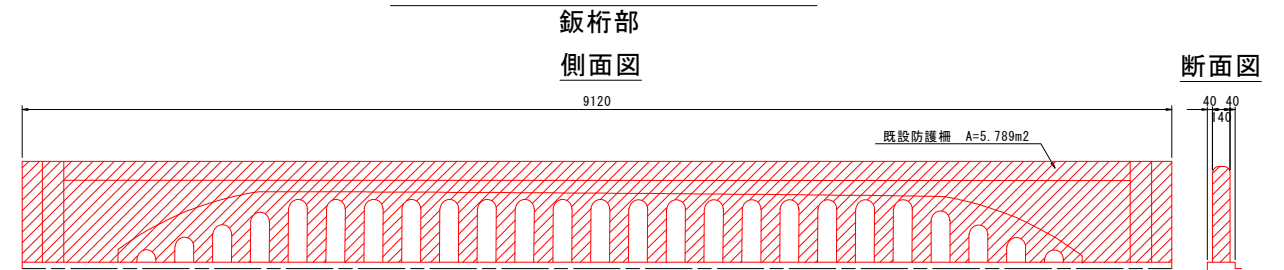
支柱詳細図 S=1:5



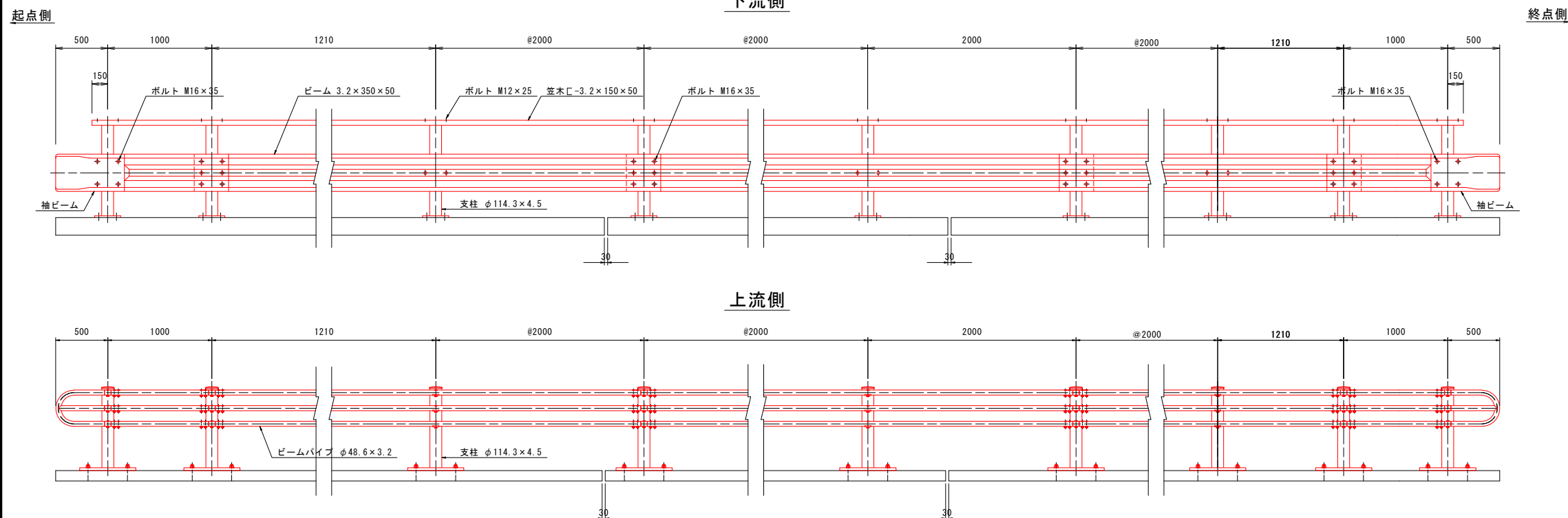
断面図 S=1:25



既設防護柵詳細図 S=1:30



側面図 S=1:25



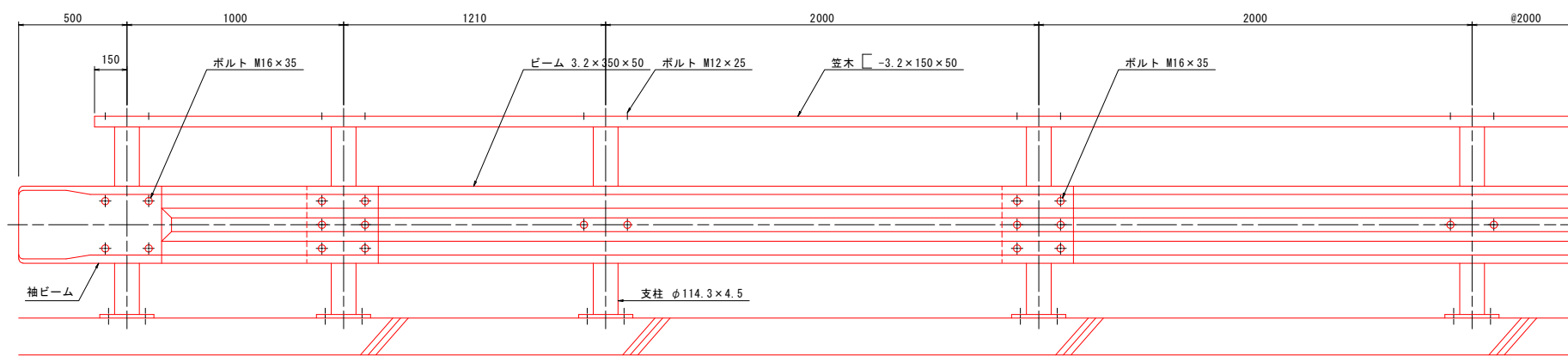
※本工事は吊足場を2回に分割設置して施工することを想定している。

図面番号	第 10 号	図面総数	全 18 葉
工事名称	木津神橋橋梁補修工事		
図名	防護柵取替構造図(その1)		
製作年月	令和4年6月	所属年度	令和4年度
係員	課長	副課長	係長
	係員	設計・製図	照査

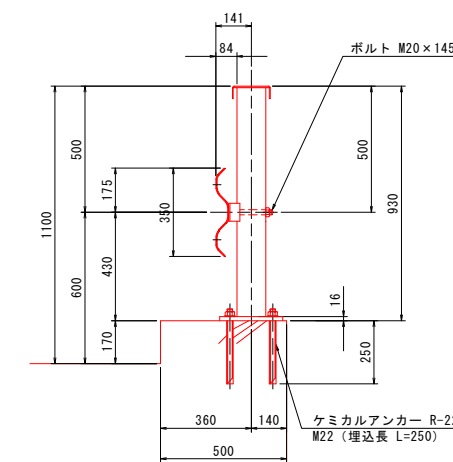
鳴門市 都市建設部 土木課

防護柵取替構造図(その2) S=1:15

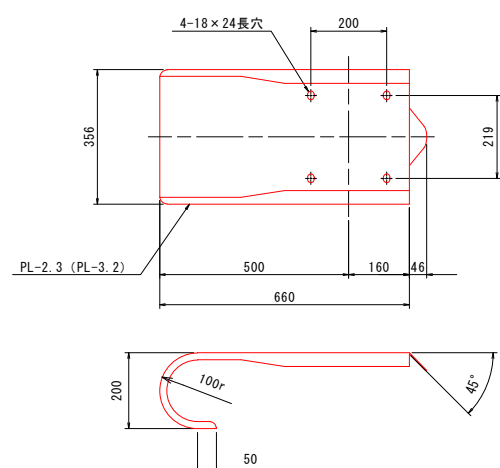
組立図



支柱

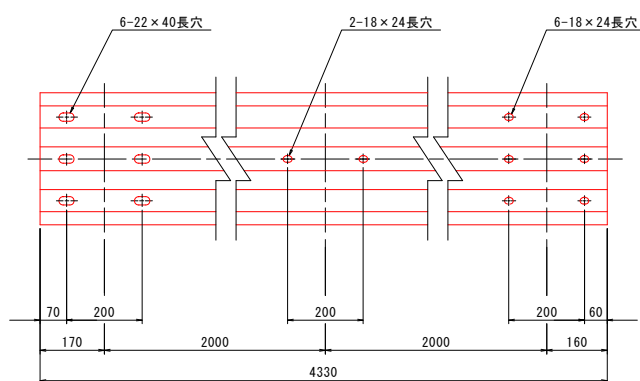


袖ビーム

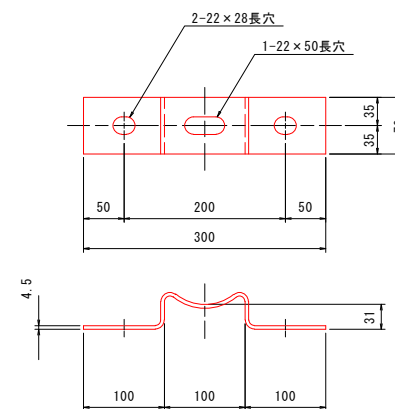


() 数字は溶融亜鉛めっき品の場合

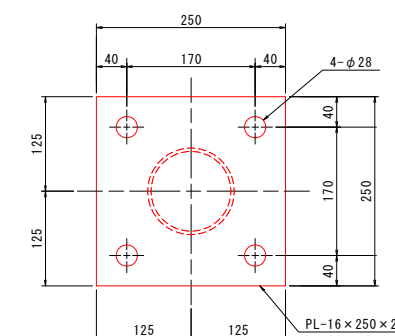
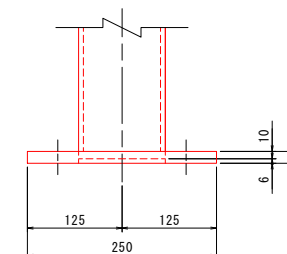
ビーム



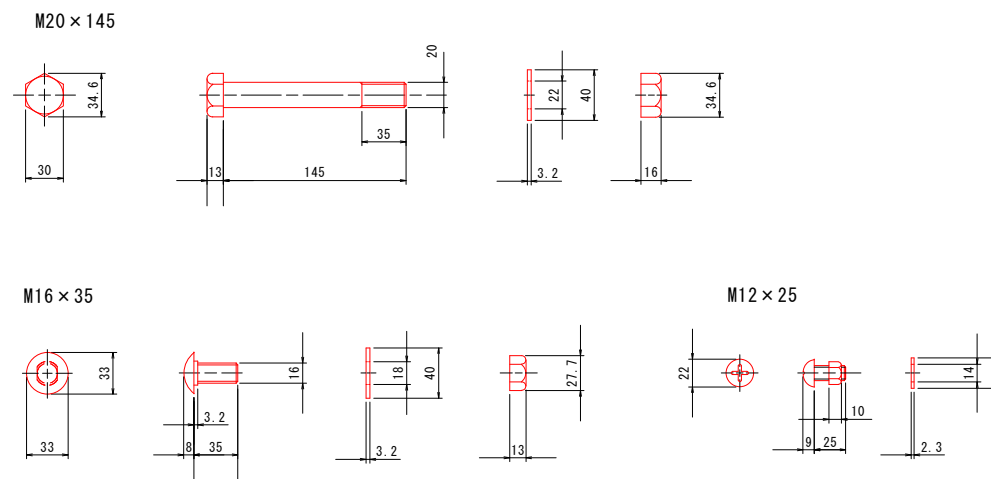
ブラケット



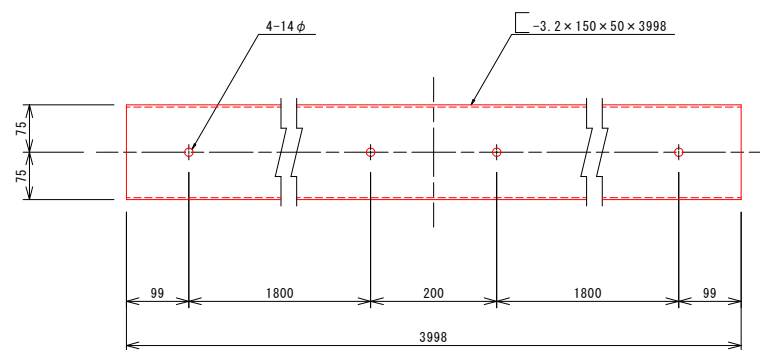
ベースプレート詳細



取付ボルト



笠木



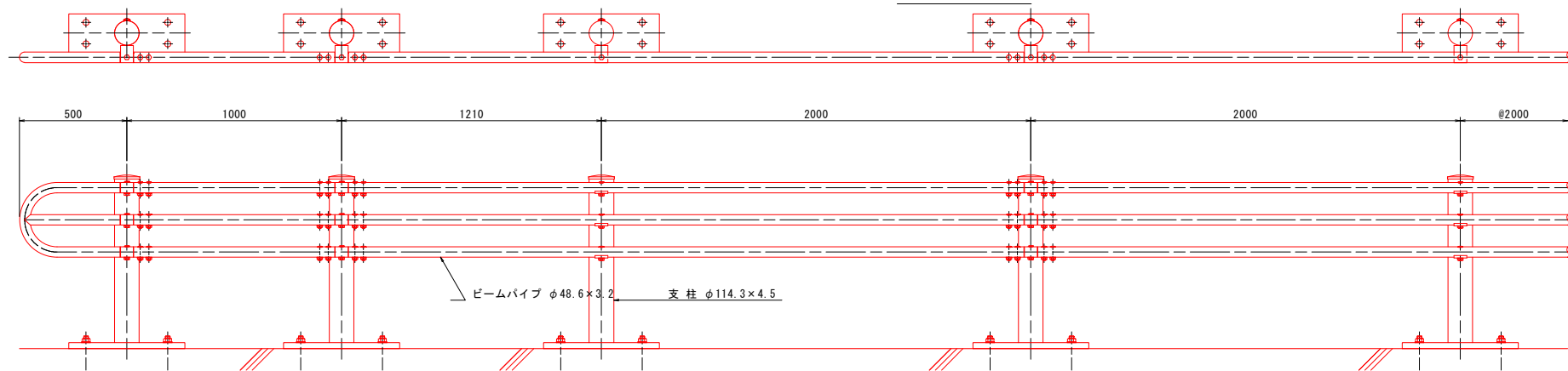
図面番号	第 11 号	図面総数	全 18 葉
工事名称	木津神橋橋梁補修工事		
図名	防護柵取替構造図(その2)		
製作年月	令和4年6月	所属年度	令和4年度
係員	課長	副課長	係長
	係員	設計・製図	照査

鳴門市 都市建設部 土木課

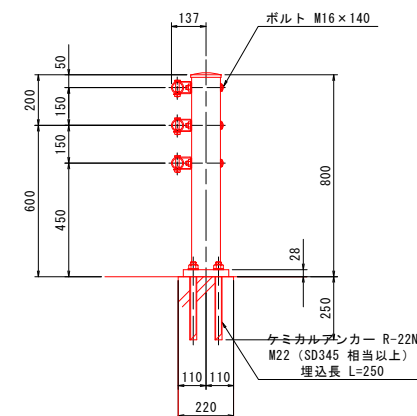
※本工事は吊足場を2回に分割設置して施工することを想定している。

防護柵取替構造図(その3) S=1:15

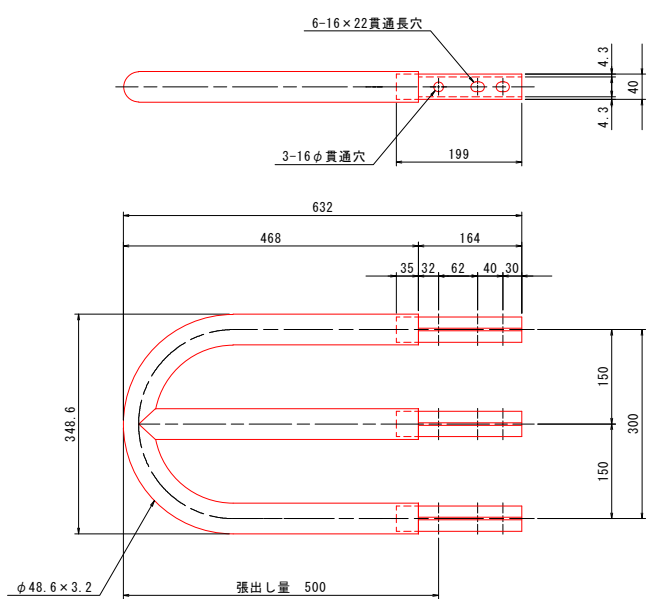
組立図



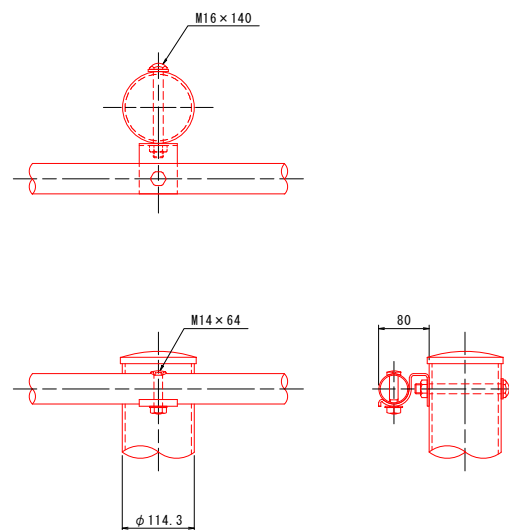
断面図



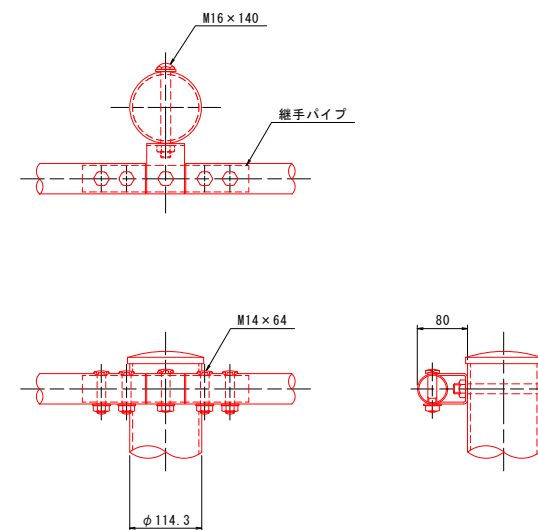
袖パイプ S=1:6



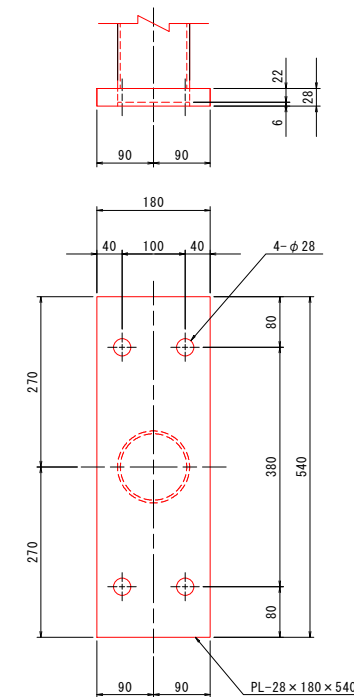
ビームパイプ中間部 S=1:6



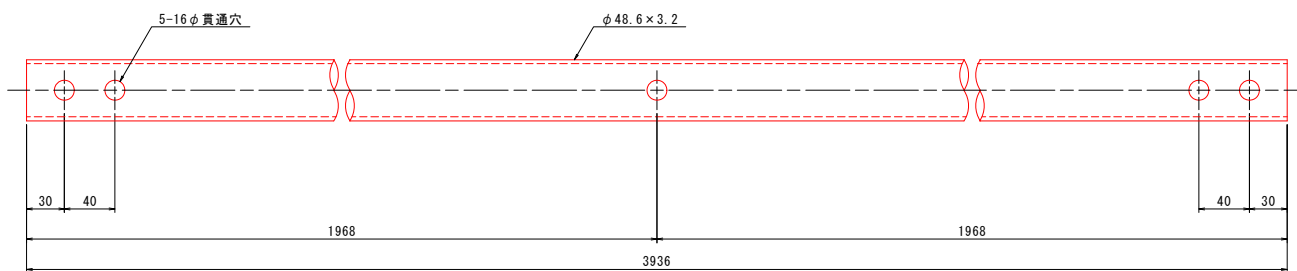
ビームパイプ継手部 S=1:6



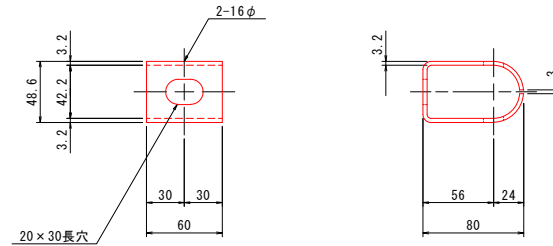
ベースプレート詳細図 S=1:6



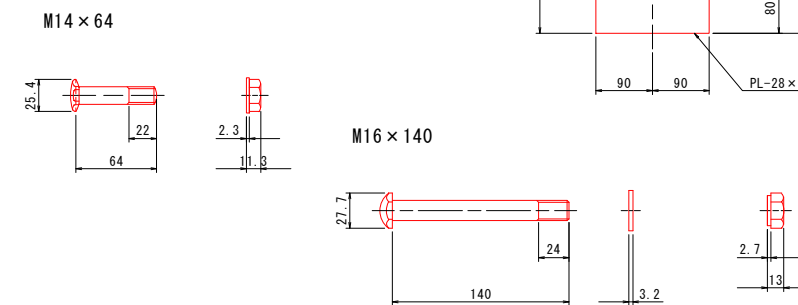
ビームパイプ S=1:3



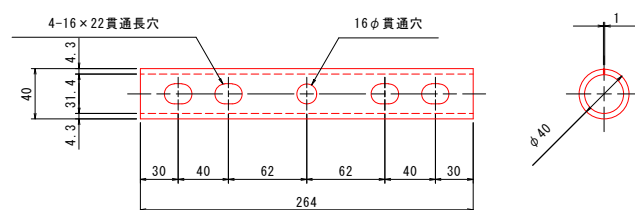
継手ブラケット S=1:3



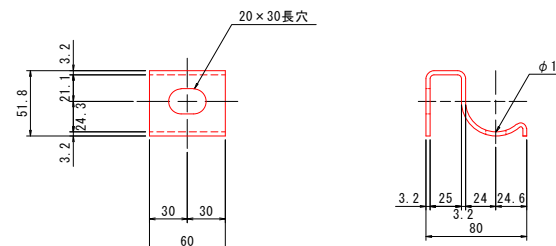
取付ボルト S=1:3



継手パイプ S=1:3



中間ブラケット S=1:3

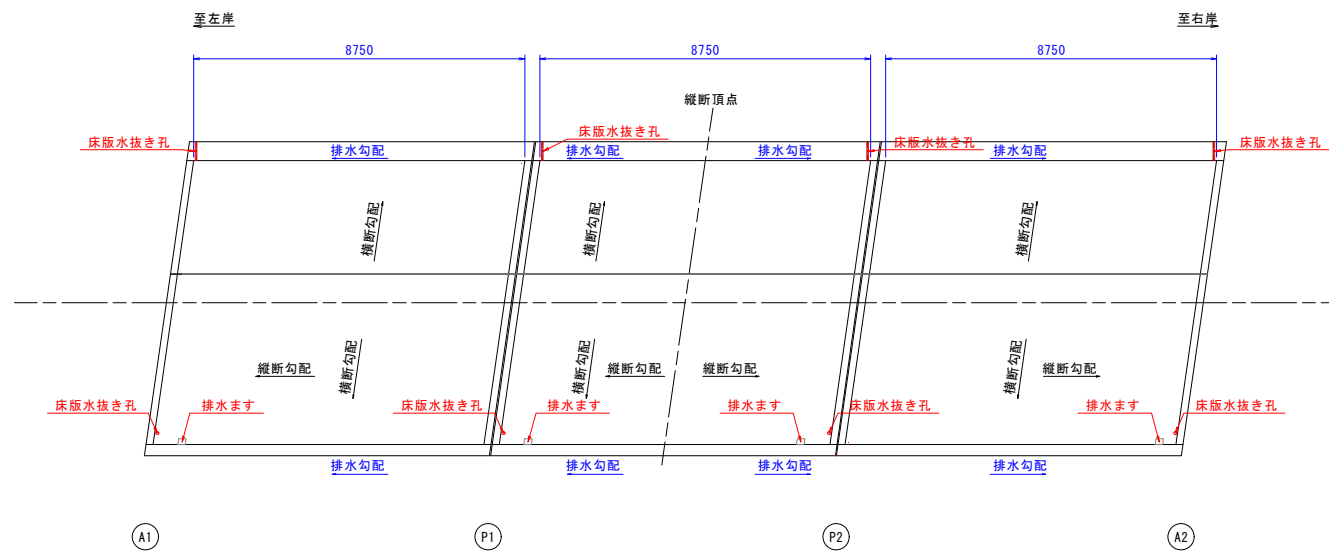


※本工事は吊足場を2回に分割設置して施工することを想定している。

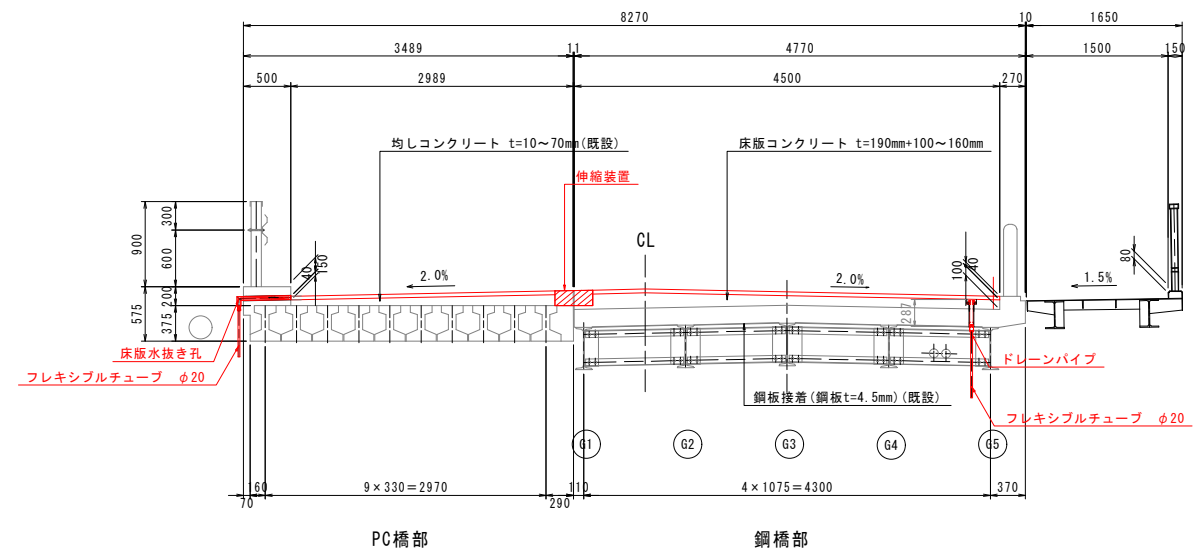
図面番号	第 12 号	図面総数	全 18 葉
工事名称	木津神橋橋梁補修工事		
図名	防護柵取替構造図(その3)		
製作年月	令和4年6月	所属年度	令和4年度
係員	課長	副課長	係長
	係員	設計・製図	照査
鳴門市 都市建設部 土木課			

水抜き孔設置図 S=1:100

平面図



断面図 S=1:40

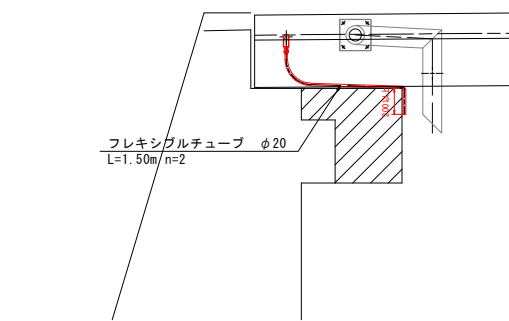


流末部詳細図 S=1:30

PC橋部

橋台部
A1, A2

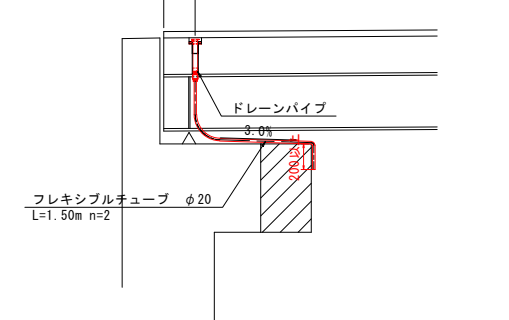
橋脚部
P1, P2



鋼橋部

橋台部
A1, A2

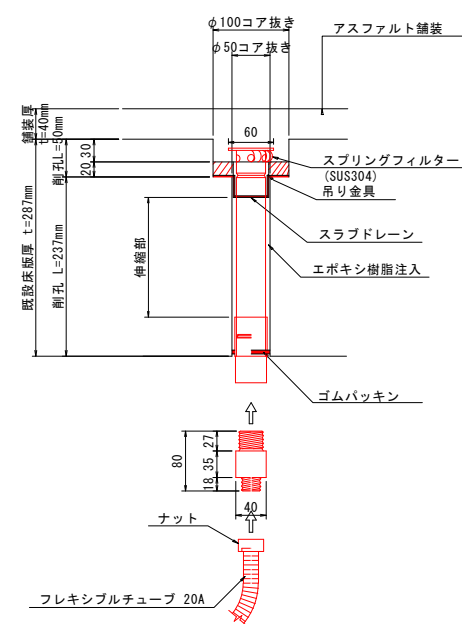
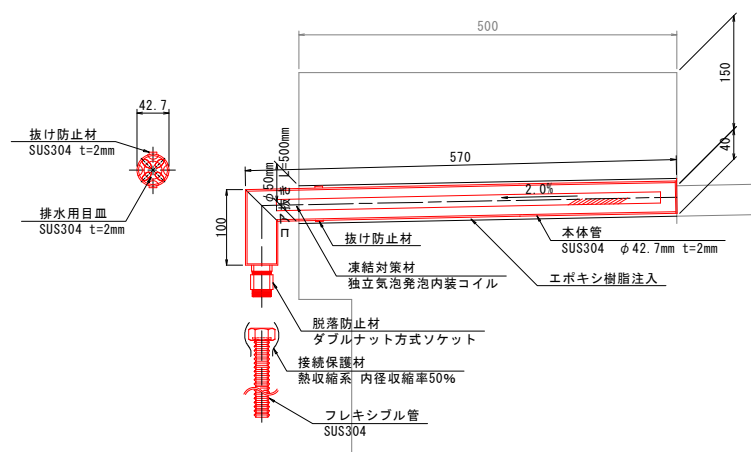
橋脚部
P1, P2



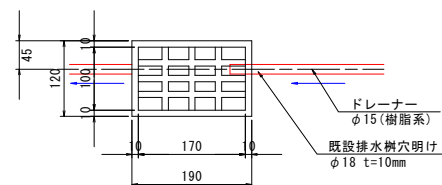
床版水抜き孔詳細図 S=1:5

PC橋部

鋼橋部



排水柵部 S=1:6



- 注記
 1. 本図面は、既存資料を基に現地計測やスケールアップ等にて図化したものである。
 2. 詳細な寸法等に不明箇所がある為、必要に応じて再計測等を実施すること。
 3. 数量は現地計測の後決定すること。

※本工事は吊足場を2回に分けて設置して施工することを想定している。

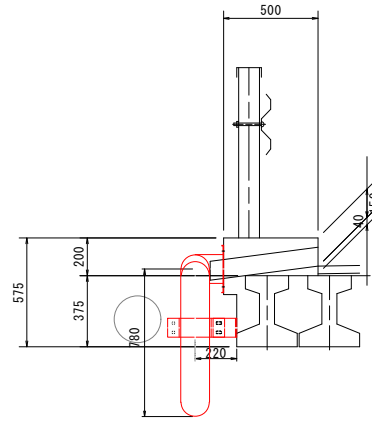
図面番号	第 13 号	図面総数	全 18 葉
工事名称	木津神橋橋梁補修工事		
図名	水抜き孔設置図		
製作年月	令和4年6月	所属年度	令和4年度
係員	課長	副課長	係長
	係員	設計・製図	照査
鳴門市 都市建設部 土木課			

排水装置補修詳細図(その1) S=1:20

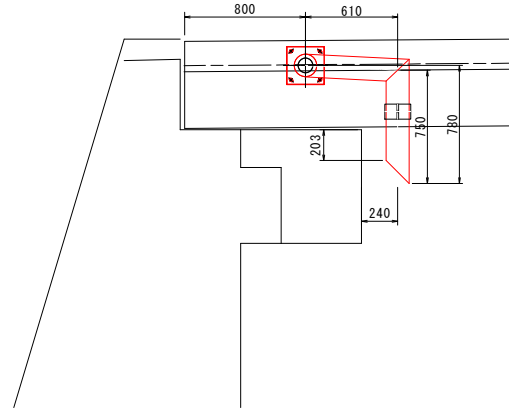
PC橋部

側面図

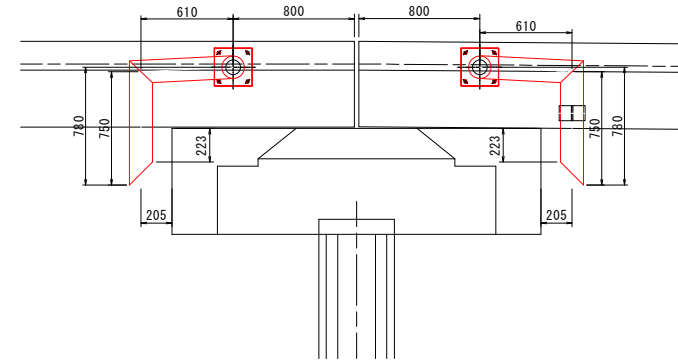
断面図



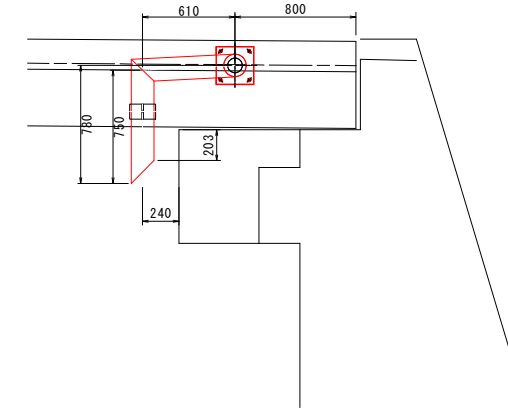
橋台部
A1



橋脚部
P1, P2



橋台部
A2



排水管詳細図 S=1:10

取付金具詳細図 S=1:6
製作数: 4

外周曲加工詳細図 S=1:1

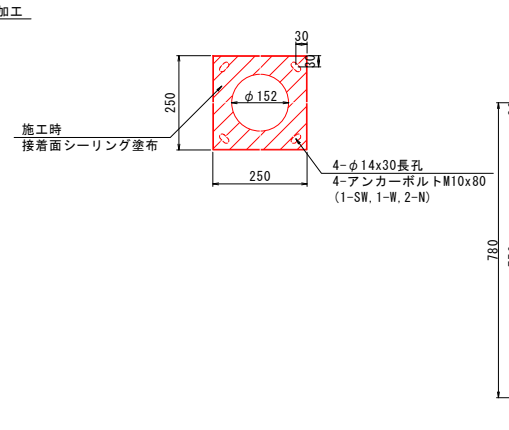
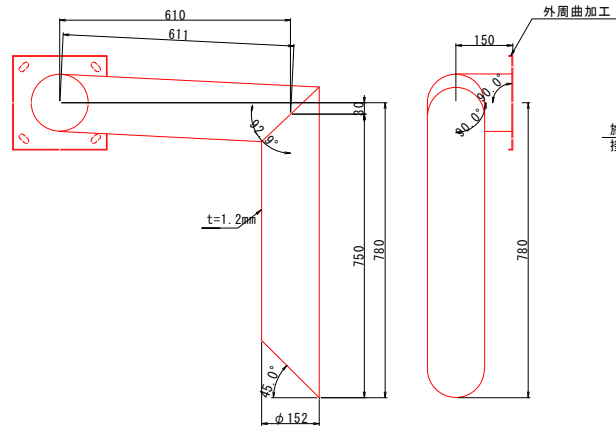
排水管詳細図
ケース1 製作数=2

天板プレート詳細図

排水管詳細図
ケース2 製作数=2

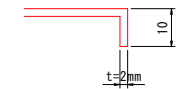
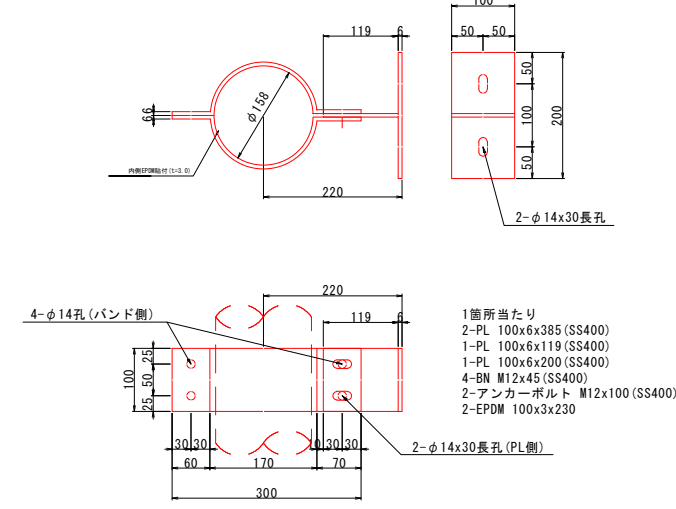
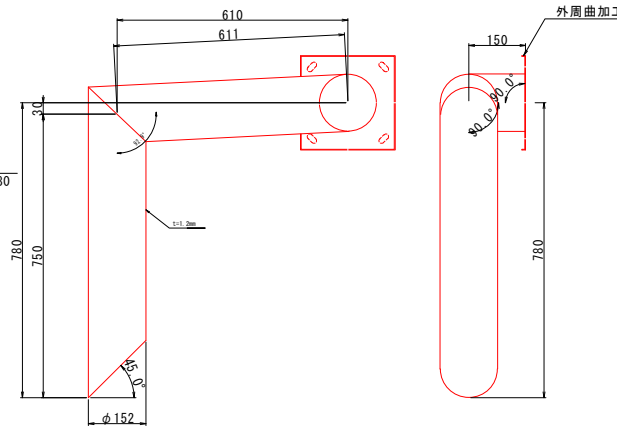
側面図

断面図



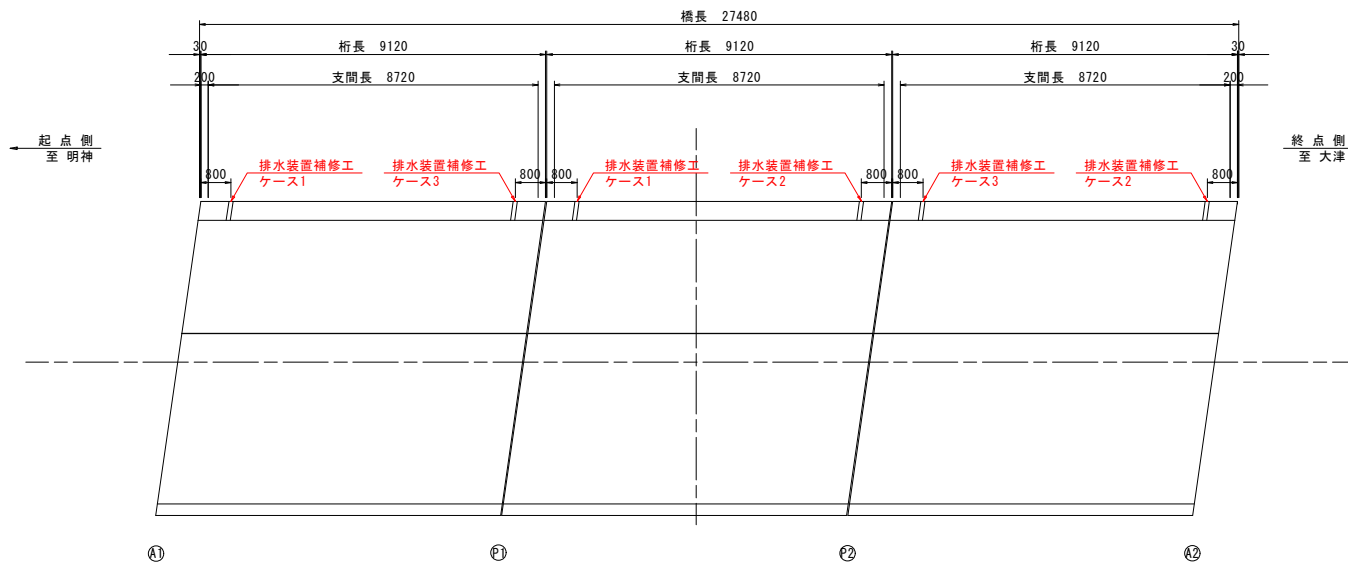
側面図

断面図



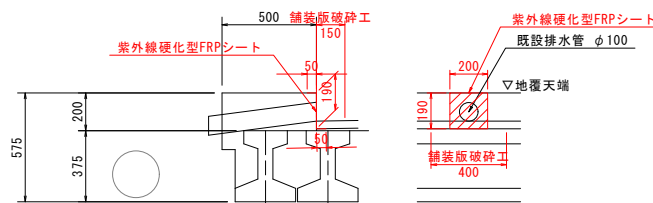
位置図 S=1:100

排水装置補修工
ケース3 施工箇所=2



断面図

側面図



1. 特記なき材質はすべてSUS304とする。
2. 排水装置はTSステンレス排水装置に準ずる。
3. 天板プレート一体型排水装置は、NETIS No. CB-190003-AIに準ずる。
4. SS400は全て溶融亜鉛メッキ (JIS H 8641 2種 HDZ55) 仕上げを行う。但し、ボルト類はHDZ35とする。
5. t=2.0未満のステンレス鋼材溶接部内外面に対し耐食性向上の措置を講じる。
6. 現地調査にて寸法確定後製作する。

図面番号	第 14 号	図面総数	全 18 葉
工事名称	木津神橋橋梁補修工事		
図名	排水装置補修詳細図(その1)		
製作年月	令和4年6月	所属年度	令和4年度
係員	課長	副課長	係長
	係員	設計・製図	照査

鳴門市 都市建設部 土木課

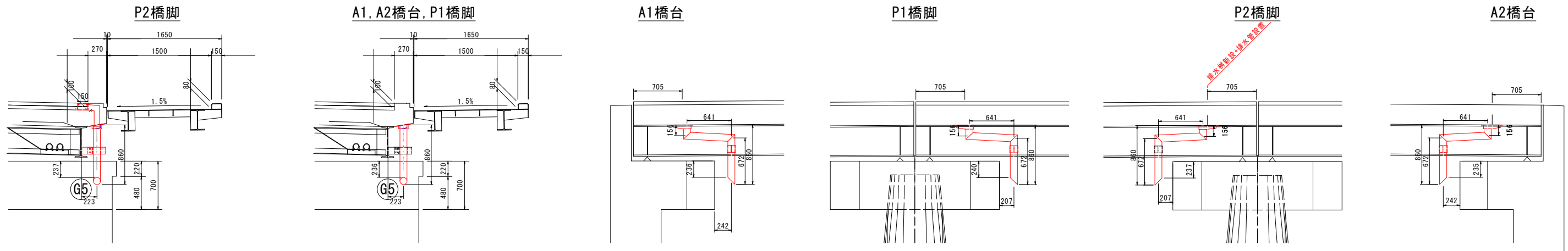
※本工事は吊足場を2回に分割設置して施工することを想定している。

排水装置補修詳細図(その2) S=1:20

鈹桁橋部

断面図

側面図



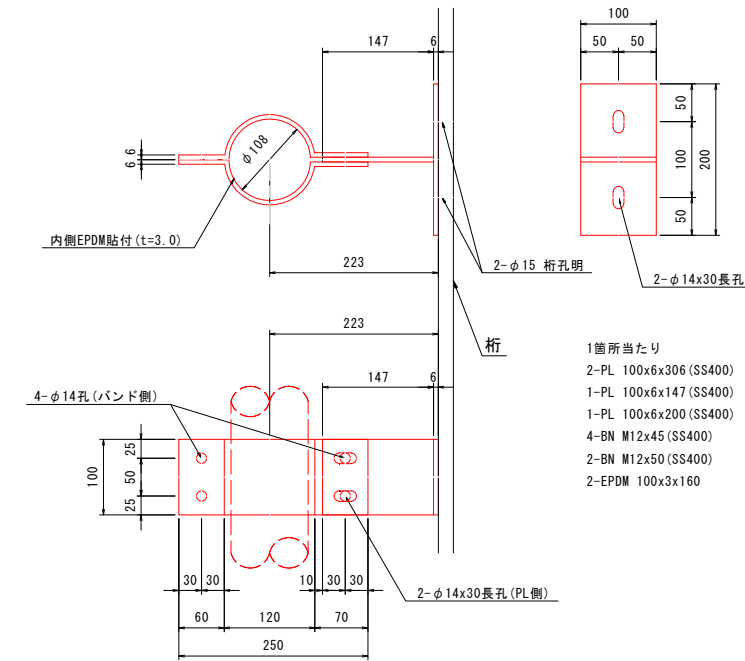
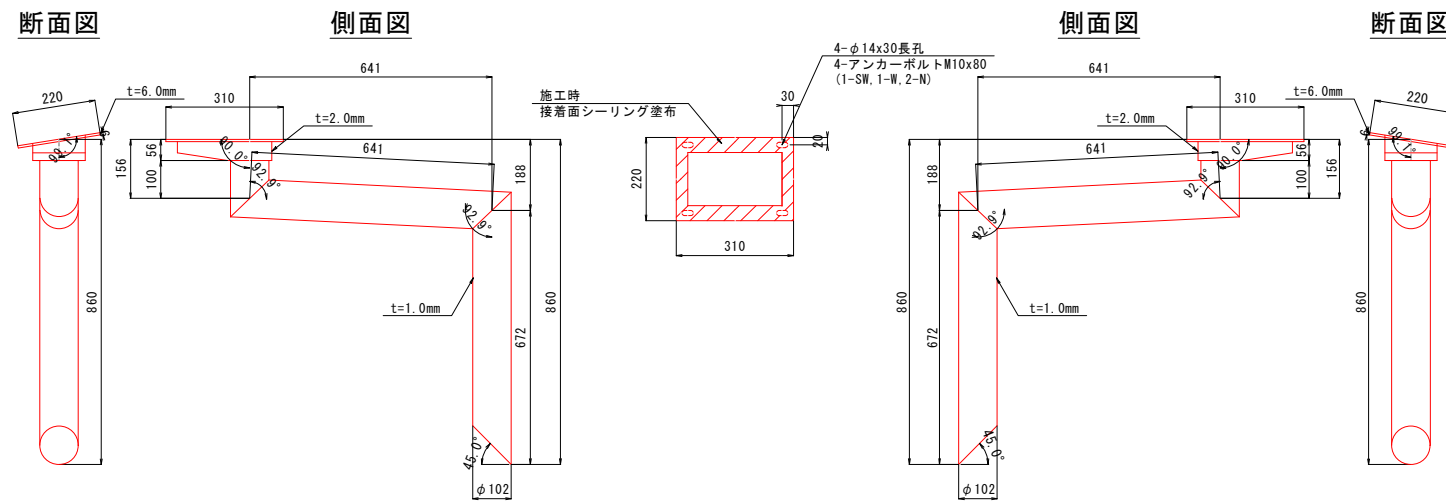
排水管詳細図 S=1:10

取付金具詳細図 S=1:6 製作数: 4

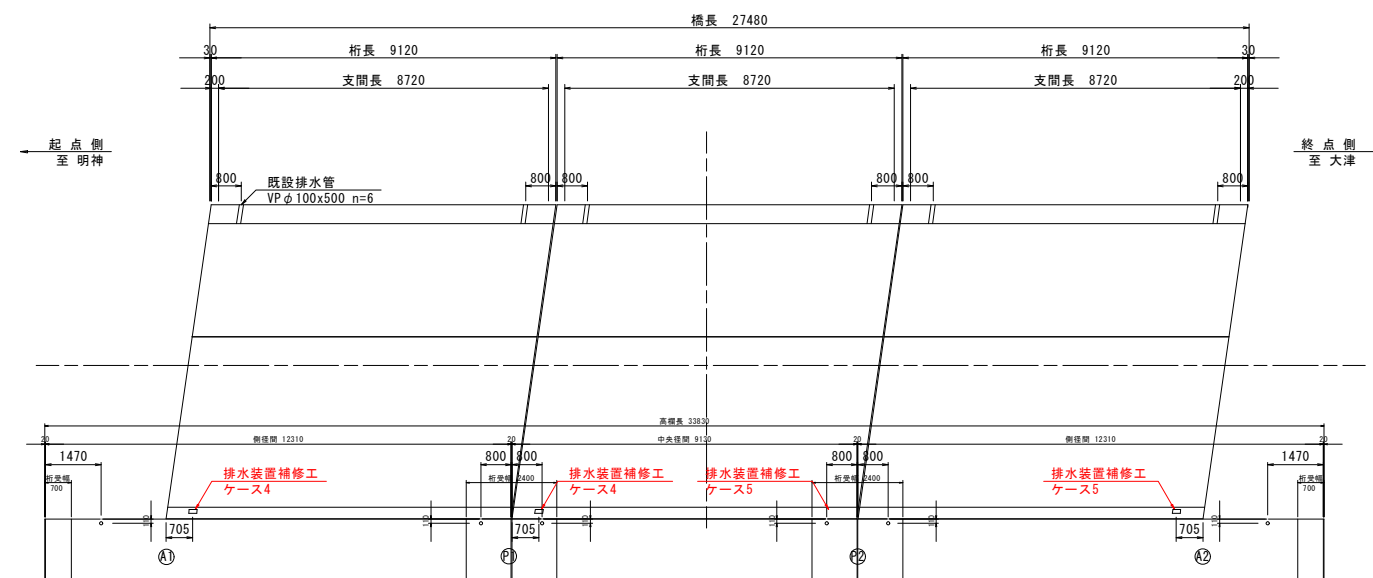
排水管詳細図 ケース4 製作数=2

天板プレート詳細図

排水管詳細図 ケース5 製作数=2



位置図 S=1:100



- 注) 1. 特記なき材質はすべてSUS304とする。
 2. 排水装置はTSステンレス排水装置に準ずる。
 3. 天板プレート型排水装置は、NETIS No. CB-190003-AIに準ずる。
 4. SS400は全て溶融亜鉛メッキ (JIS H 8641 2種 HDZ55) 仕上げを行う。但し、ボルト類はHDZ35とする。
 5. t=2.0未満のステンレス鋼材溶接部内外面に対し耐食性向上の措置を講じる。
 6. 現地調査にて寸法確定後製作する。

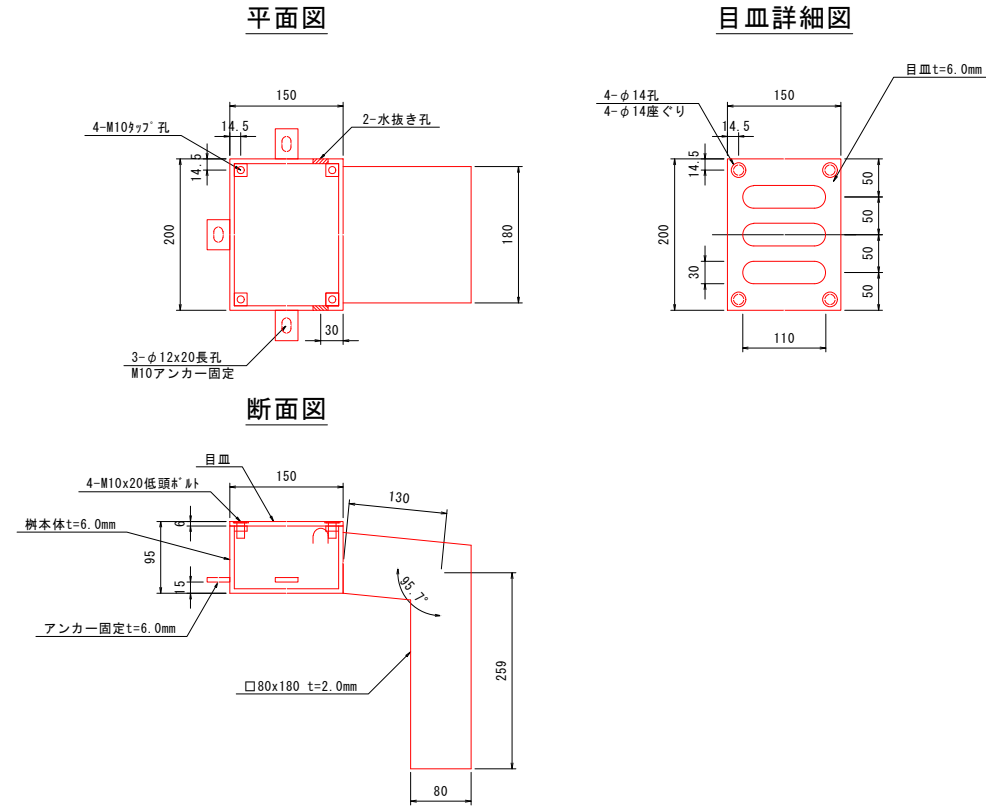
※本工事は吊足場を2回に分割設置して施工することを想定している。

図面番号	第 15 号	図面総数	全 18 葉
工事名称	木津神橋橋梁補修工事		
図名	排水装置補修詳細図(その2)		
製作年月	令和4年6月	所属年度	令和4年度
係員	課長	副課長	係長
	係員	設計・製図	照査
鳴門市 都市建設部 土木課			

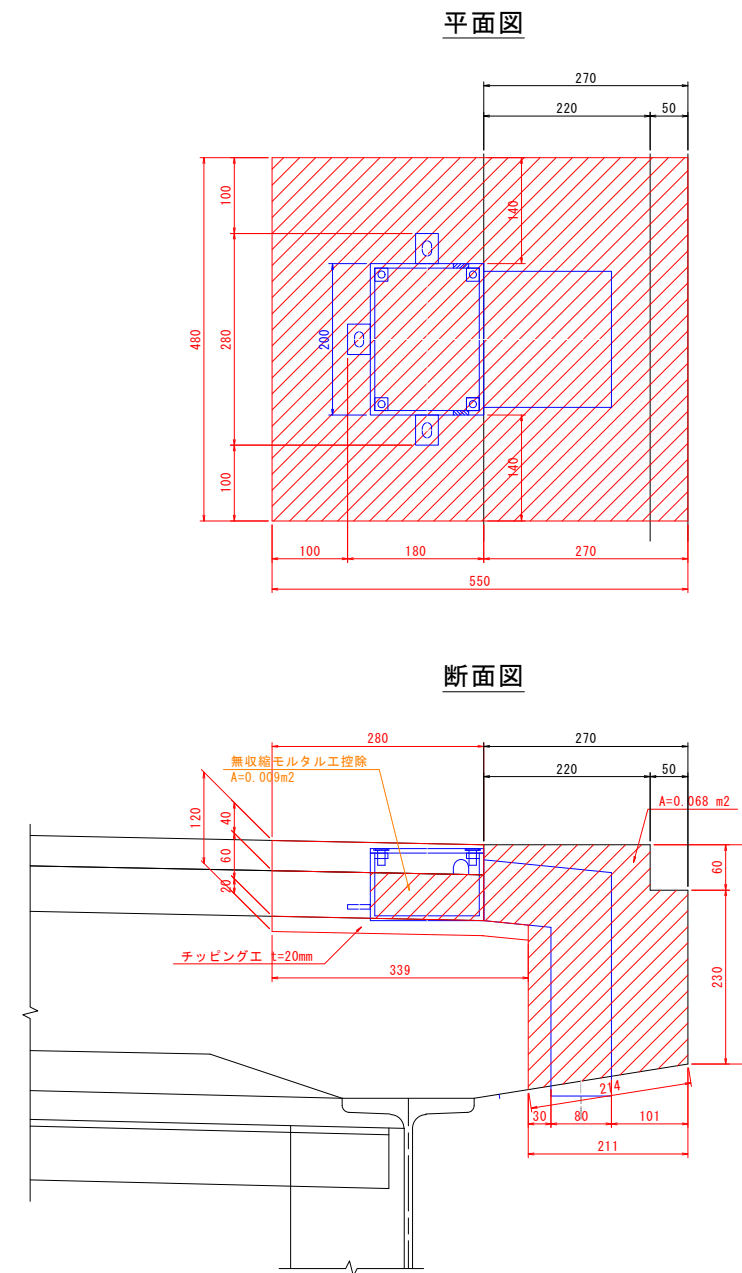
排水装置補修詳細図(その3) S=1:10

飯桁橋部

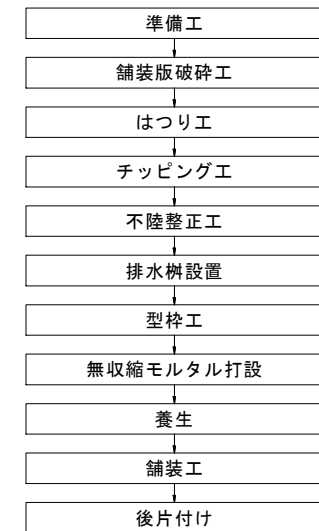
排水柵詳細図



排水柵設置要領図



【施工ステップ】



図面番号	第 16 号	図面総数	全 18 葉
工事名称	木津神橋橋梁補修工事		
図名	排水装置補修詳細図(その3)		
製作年月	令和4年6月	所属年度	令和4年度
係員	課長	副課長	係長 係員
			設計・製図 照査

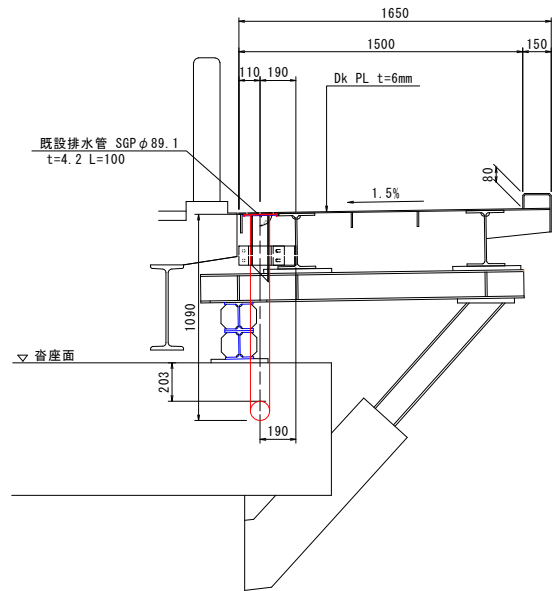
鳴門市 都市建設部 土木課

※本工事は吊足場を2回に分割設置して施工することを想定している。

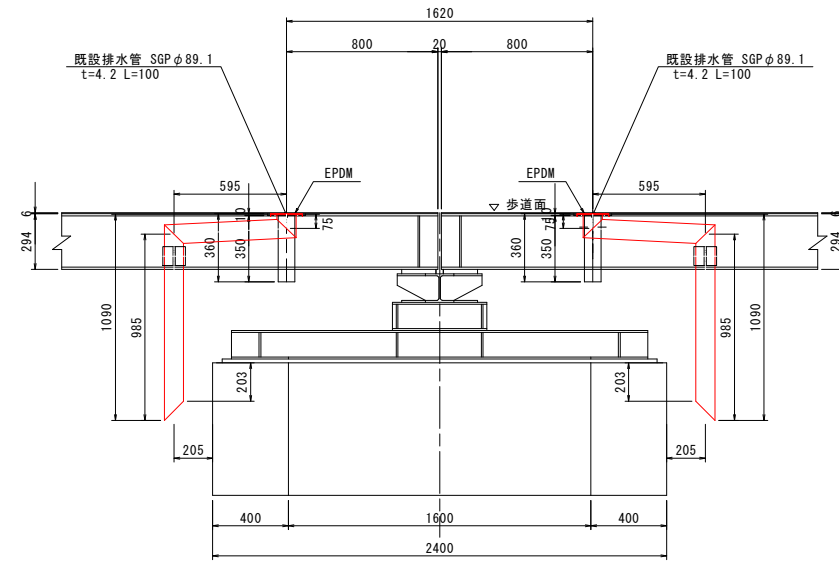
排水装置補修詳細図(その4) S=1:20

歩道橋部

断面図

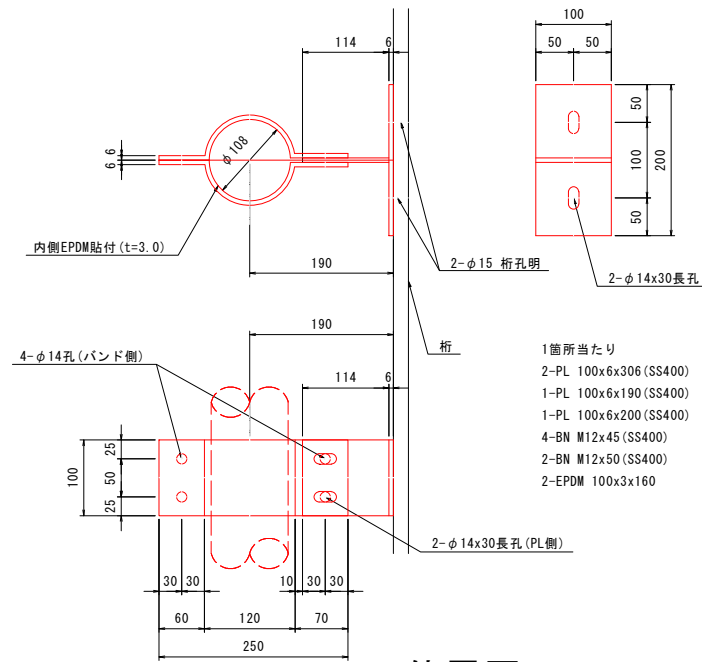


側面図



取付金具詳細図 S=1:6

製作数: 2



- 1箇所当たり
 2-PL 100x6x306 (SS400)
 1-PL 100x6x190 (SS400)
 1-PL 100x6x200 (SS400)
 4-BN M12x45 (SS400)
 2-BN M12x50 (SS400)
 2-EPDM 100x3x160
- 注) 1. 特記なき材質はすべてSUS304とする。
 2. 排水装置はTSステンレス排水装置に準ずる。
 3. 天板プレート型排水装置は、NETIS No. CB-190003-Aに準ずる。
 4. SS400は全て溶融亜鉛メッキ (JIS H 8641 2種 HDZ55) 仕上げを行う。但し、ボルト類はHDZ35とする。
 5. t=2.0未満のステンレス鋼材溶接部内外面に対し耐食性向上の措置を講じる。
 6. 現地調査にて寸法確定後製作する。

排水管詳細図 S=1:10

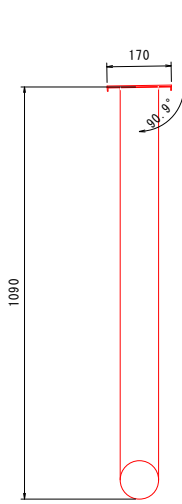
排水管詳細図 ケース6 製作数=2

天板プレート詳細図

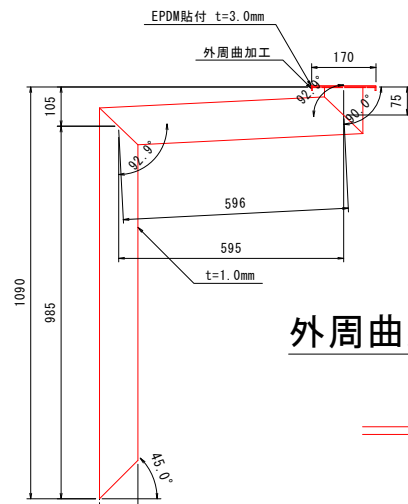
排水管詳細図 ケース7 製作数=2

位置図 S=1:100

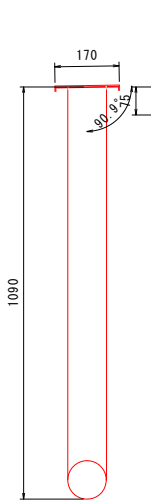
断面図



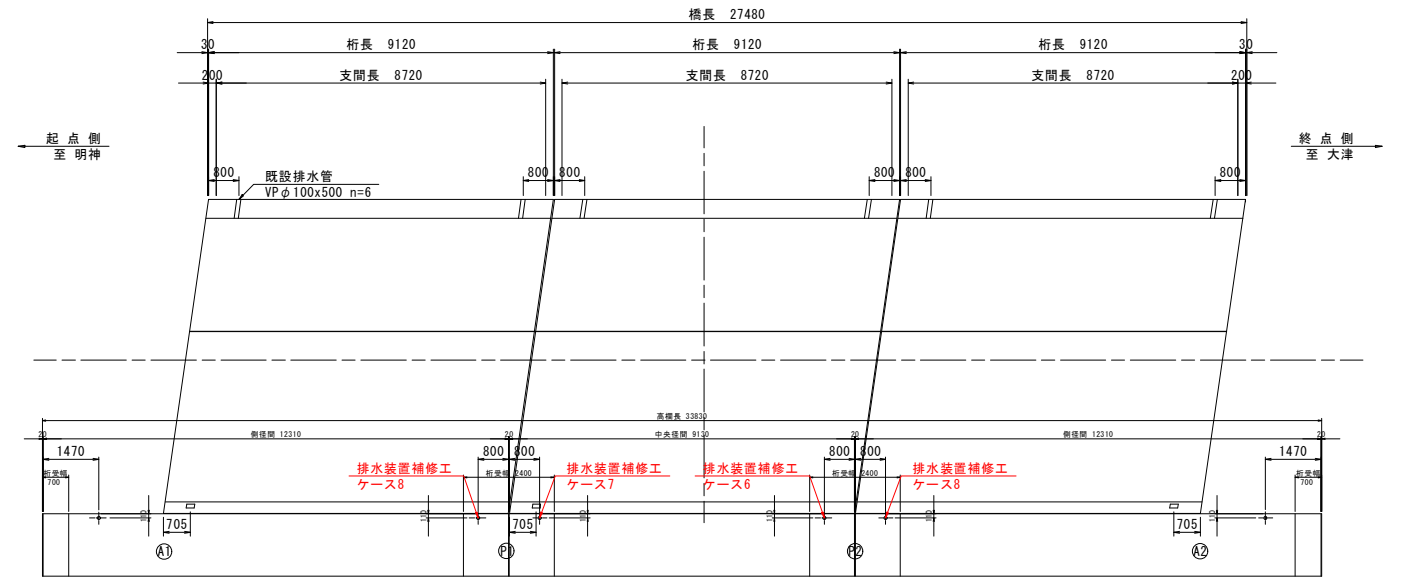
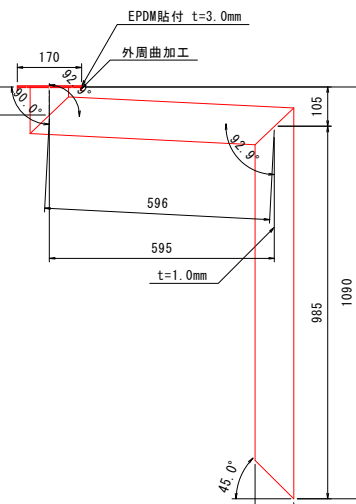
側面図



断面図



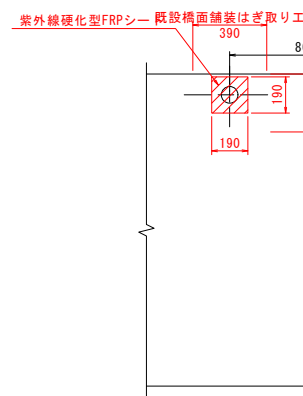
側面図



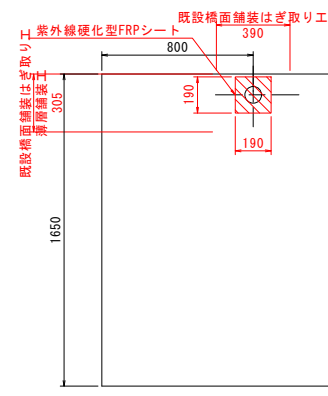
外周曲加工詳細図 S=1:1

排水装置補修工 ケース8 施工箇所=2

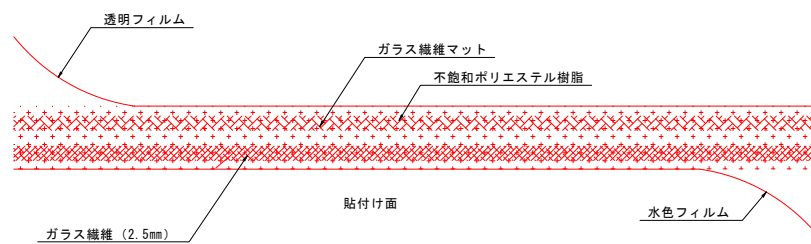
平面図 P1橋脚部



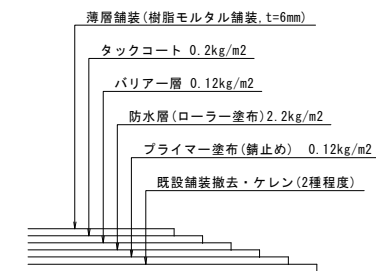
平面図 P2橋脚部



紫外線硬化型FRPシート詳細図



薄層舗装構造図



※本工事は吊足場を2回に分割設置して施工することを想定している。

図面番号	第 17 号	図面総数	全 18 葉
工事名称	木津神橋橋梁補修工事		
図名	排水装置補修詳細図(その4)		
製作年月	令和4年6月	所属年度	令和4年度
係員	課長	副課長	係長
	係員	設計・製図	照査

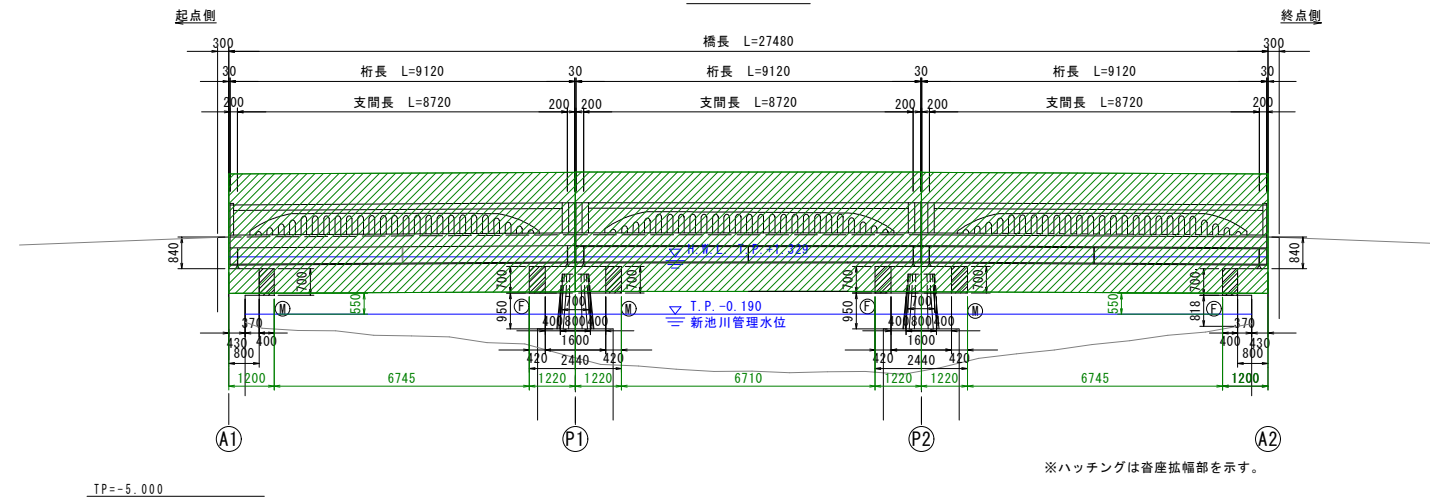
鳴門市 都市建設部 土木課

施工要領図 S=1:100

木津神橋

側面図

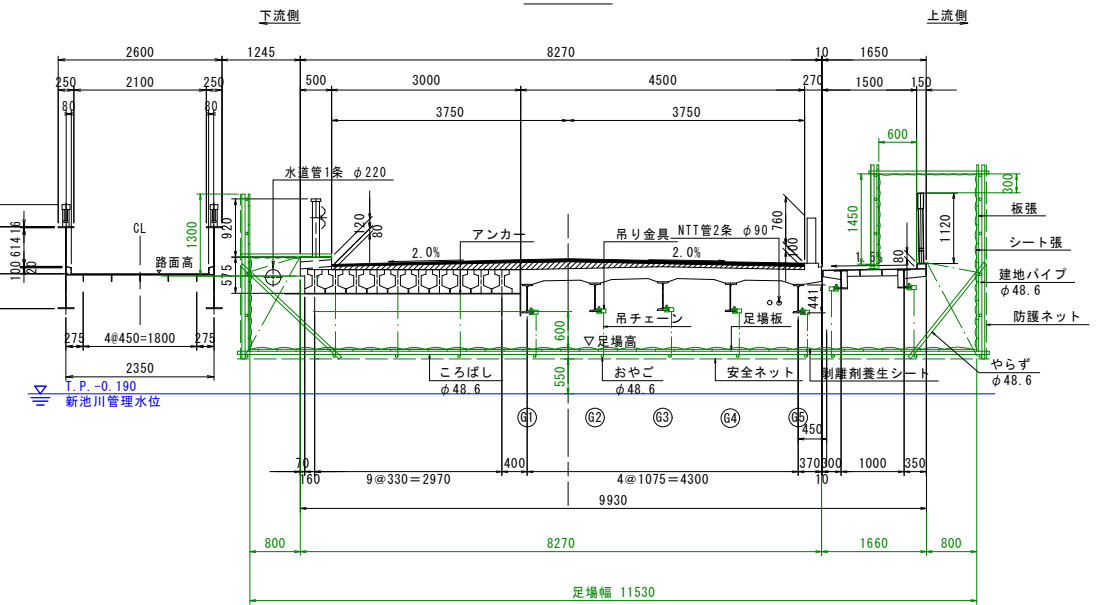
鋼I形桁橋



TP=-5.000

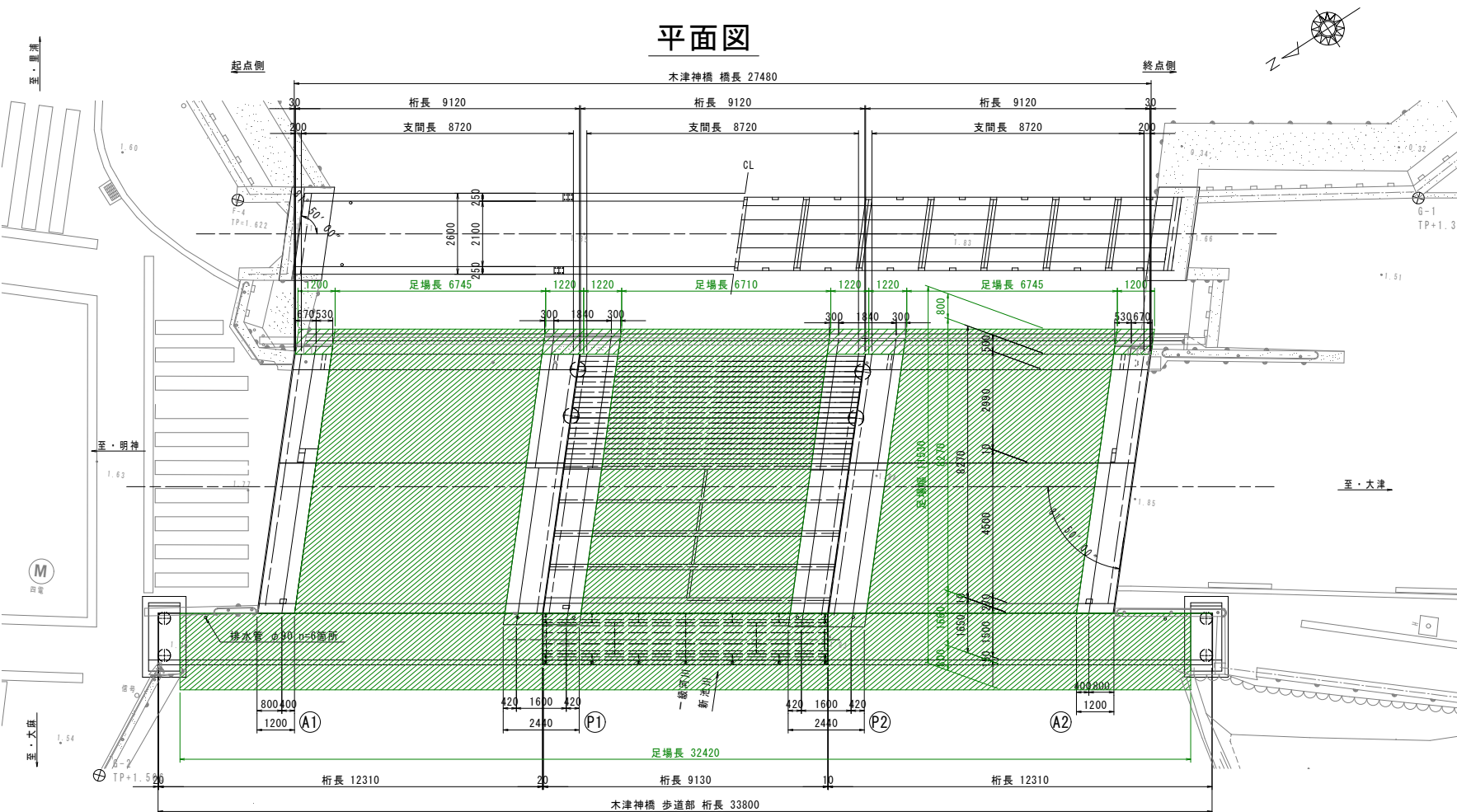
断面図 S=1:60

橋台部



※水位はA1、A2部での高さを示す。

平面図



※本工事は吊足場を2回に分割設置して施工することを想定している。

図面番号	第 18 号	図面総数	全 18 葉
工事名称	木津神橋橋梁補修工事		
図名	施工要領図		
製作年月	令和 4 年 6 月	所属年度	令和 4 年度
係員	課長	副課長	係長
	係員	設計・製図	照査

鳴門市 都市建設部 土木課